

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て						
A_ 事実的知識		①具体と抽象など情報と情報の関係について知る。 説明する PowerPoint	②意見文で自分の考えの書き方を知る。 PowerPoint	③着眼点を決めてクラフなど資料を読み取る。 →		
B_ 概念的知識		分類、比較する	どのような方法で読み取るかを選択する			
C_ 手続的知識		PowerPoint	ワークシート	④問いを立てて分析する。 →		⑥意見文を書く。
			考えた方法で実行、編集する	相関を示したり、例示したりする		考察、創作をする
			ワークシート	ワークシート		Word
				⑦書いたものを自分で推敲する。 ⑧書いたものを自分で推敲する。 ⑨グループや班で読み合い、コメントや助言をする。 ⑩自分の作品を読み、振り返って評価をする。		コメントする 評価する
D_ メタ認知的知識			意見と情報に関連付けられているか確認する			
				Word		ロイノート・スケール

3観点			知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
評価規準 単元を通して育むチカラ	具体的な情報を基に、着眼点を決めて、分析し、自分の考えをまとめている。		自 論 理 の 展 開 に つ い て、 助 言 を 踏 ま え、 推 敲 し て い る。		進んで今までの学習を生かして意見文を書こうとしている。
評価方法 単元テスト、成果物、実演等	ワークシート 成果物	ワークシート 成果物	ワークシート 成果物	ワークシート 成果物	ワークシート 行動観察
評価の機会 単元の途中、最終、等 評価のタイミング	ワークシート 成果物	ワークシート 成果物	ワークシート 成果物	ワークシート 成果物	ワークシート 行動観察

国語科学習指導案

日時 令和3年7月16日(金)

対象 3年2組 計33名

授業者 教諭 磯崎 健太

場所 3階3年2組教室

1 単元名 「情報を読み取って文章を書こう(意見文)」

2 本時の目標(ねらい)

- ・具体的な情報を基に、自分の考えをまとめる。
- ・論理展開などについて推敲したり、友達から助言を受けたりして、よりよい文章にする。

3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 【学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	10	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字練習 ・本時の目標・学習活動の流れを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間だけの単元のため、学習を円滑に進めるため、授業の流れを把握させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に漢字練習を行っている。 <p>【主】</p>
展開①	15	タキノミーより：「理解する」の実践 ※一部「評価する」		
		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の書いた文章を再度、読み返す。 ・A評価、B評価の作文はどのようなものなのか、考える。 ・2人1組になり「ロイロノート・スクール」の提出箱を見て、互いに評価する。 ・意見文の書き方を知る。 ①資料を読み取り方 ②誰に向けた文章なのか ③読み取りだけではなく、問いを立てて、資料を分析しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・書いてから間が空いてしまっているため、自分の書いた文章を確認させる。 ・評価の仕方が分散しないように、「文章構成(内容)」のみの評価に絞り、評価させる。 ・できるだけ生徒の評価を拾いながら、つなげていく。出ないようなら、教員が①から③を示す。 	
展開②	15	タキノミーより：「分析する」の実践 ※一部「応用する」		
		<ul style="list-style-type: none"> ・問いを立てて分析する。 ・構成メモを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに沿って分析させる。 ・結末が読書の効用・推進になるようにさせる。 	
まとめ	10	タキノミーより：「想像する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・意見文を書く。 ・「意見文を書くために大切なこと(この授業で学んだこと)」という題で振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイマーを出し、時間意識をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を分析し、論理の展開に注意して意見文を書けているか。【思・判・表】

4 タキノミーに対応した評価

- ・問いを立てて、分析することができる。(分析する)
- ・論理の展開に注意し、意見文を書くことができる。(想像する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

NELM
Nagasaki English Learning Method
2020年度作成

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
A_ 事実的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立て					
	学習目標					
	学習者の動詞 道具・手立 (ICT含む)					
B_ 概念的知識	学習目標	①起承転結を理解する。				
	学習者の動詞	理解する				
	道具・手立 (ICT含む)	ワークシート				
C_ 手続き的知識	学習目標	②起承転結の書き方を知る。	④起承転結に合わせた構成メモを作成し合う。			
	学習者の動詞	理解する	考えた方略 を実行する	構造化する	批評する	
	道具・手立 (ICT含む)	電子黒板	ワークシート	ワークシート	ロイノート・スクール	
D_ メタ認知的知識	学習目標					⑦体験文を書く。
	学習者の動詞		推敲する			作文を書く
	道具・手立 (ICT含む)		ワークシート	ワークシート	ワークシート	ワークシート

3観点 知識・技能 思考・判断・表現 学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	故事成語の語義を理解する。	起承転結を意識し、故事成語の語義に基づいた体験文を書くことができる。	「起承転結を意識する」、「語義に基づいた体験文を書く」という課題解決に主体的に関わろうとしていく。
評価方法 単元テスト、成果物、実演等	単元テスト	成果物	ワークシート・観察
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	単元の途中	単元の最後	単元の最後

国語科学習指導案

日 時 令和3年10月15日(金)
 対 象 1年1組 計22名
 授業者 教諭 磯崎 健太
 場 所 5階1年1組教室

- 1 単元名 「今に生きる言葉(矛盾)」
- 2 本時の目標(ねらい)
 - ・学習課題「故事成語に合った日常生活の出来事を体験文として書こう」を設定し、学習の見通しをもつ。
 - ・「起承転結」を意識した文章構成を作成する。

3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 【学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	10	<ul style="list-style-type: none"> ・「Monoxer」で漢字を練習する。 ・本時の目標・学習活動の流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑に進めるため、授業の流れを把握させる。 ・学習課題を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に漢字練習を行っている。【主】
展開①	20	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">タキノミーより：「理解する」の実践 ※一部「応用する」</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「起承転結」を理解する。 ・既習事項である「矛盾」を使い、4コマ漫画と文章を「起承転結」を意識して書く。 ・体験文の書き方を知る。 ①起承転結を意識しているか ②いつどこで誰が何をしたというような具体的な場面や状況が書かれているか ③故事成語の意味と関連しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4コマ漫画を使い、説明する。 ・まずは取り組みやすい、4コマ漫画にセリフを書かせる。その上で、4コマ漫画の詳細になる文章を書く。 ・最終的な学習の課題を明確にする。 	
展開②	15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">タキノミーより：「分析する」の実践</div> <ul style="list-style-type: none"> ・故事成語を決める。 ・展開①と同じ形式の構成メモを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人作業として、ワークシートに沿って分析させる。 ・結末が「これぞまさに～である。」になるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終課題に向けて、よりよい体験文となるよう構成メモを作成している。【主】
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを行い、次回へとつなげる。 		

- 4 タキノミーに対応した評価
 - ・「起承転結」を理解し、故事成語で当てはめ、考えることができる。(理解する)
 - ・求められている課題を理解し、構成メモを作成することができる。(分析する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	① 記憶する	② 理解する	③ 応用する	④ 分析する	⑤ 評価する	⑥ 創造する
A_ 事実的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	① 単句の知識をつかむ。				
	学習目標	聞く 調べる				
	道具・手立 (IT含む)	デジタル教科書	② 場面や状況を参照する。	③ 人物が置かれている状況を可視化する。		
B_ 概念的知識	学習目標					
	学習者の動詞	カテゴリを整理する	図やグラフ化する			
	道具・手立 (IT含む)	ワークシート	ロイノート・スケール			
C_ 手続き的知識	学習目標					
	学習者の動詞	一般化する	整理する 統合する	再構成する		
	道具・手立 (IT含む)	デジタル教科書	ロイノート・スケール			
D_ メタ認知的知識	学習目標					
	学習者の動詞	比較する				
	道具・手立 (IT含む)	デジタル教科書				

3観点 知識・技能 思考・判断・表現 学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	登場人物の言動を表す語句に着目し、作品に与える印象を考える。	登場人物の言動の意味を考 え、人柄や心情を読み取る。	登場人物の言動の意味を考 えて登場人物の言動の意味を考 えて、人柄や心情を読み取る。	登場人物の言動の意味について考え、比較読みを通 して人物像を読み深めようとしている。
評価方法 単元テスト、成果物、実演等	ワークシート 単元テスト	成果物	成果物	成果物
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	単元の途中	単元の途中	単元の最後	単元の途中

国語科学習指導案

日時 令和3年10月15日(金)
 対象 2年1組 計28名
 授業者 主任教諭 賀嶋 盛政
 場所 4階2年1組教室

1 単元名 「きずなを読む」「盆土産」「字のない葉書」

2 本時の目標 (ねらい)
 ・登場人物が置かれている状況をより深く理解する。

3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 【学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	5	・本時の目標と流れを確認する。	・最終的には「盆土産」の父親像をより深くつかんでいくことを確認する。	
展開	40	・前時までで捉えた場面や状況を確認する。	・ワークシートをスクリーンに映す。 ・次の内容は前時のワークシートを基に確認する。 父……出稼ぎ労働者、東京で働いている。土産はえびフライ。 少年…小学生3年生。 姉……母の代わり。	・人物関連図を作成し、登場人物の置かれた状況をより深く理解できた。 【思・判・表】
		タキソノミーより：「応用する」の実践		
		・登場人物のことをより深く理解するために、「 ロイロノート・スクール 」のシンキングツール人物関連図を作り、可視化する。	・中々進まない生徒には補助として用意したカードを送信する。	
		タキソノミーより：「分析する」の実践		
		・「 ロイロノート・スクール 」で提出された人物関連図を基に、解答を共有し、気付いたことや考えたことを発表する。	・人物の関係や性格、母の不在による影響など、書かれていない部分にも着目できるとよい。	
まとめ	5	・本時を振り返って、次はどこに着目して読み取ってあげばよいかを考える。	・次時は父親の人物像に迫るために、例えば言動の描写に着目したり、キーワードに着目したりすることで読みを深めていくことを伝える。	

4 タキソノミーに対応した評価

- ・描写の効果や人物の言動を表現に即して読み取り、人物像や心情を捉え、人物関連図として表現することができる。(応用する)
- ・人物関連図を比較し、分析し、書かれていない部分にも着目することができる。(分析する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)



知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	①作品の概要と特徴を知る。 ↑	②問題部分を音読し、和漢語原文の 響きを理解する。 ↑				
A_事実的知識	聞く 調べ	言葉や態度で表現する				
	デジタル教科書	デジタル教科書				
道具・手立 (IT含む)						
学習目標		③本文のあらすじを捉える。 ↑				
B_概念的知識		カテゴリを整理する	変容させる			
学習者の動詞						
道具・手立 (IT含む)		ワークシート	デジタル教科書 ロイノート・スクール			
学習目標			④グループで場面イメージを話し 合う。	⑤場面にあったタイトルをつける。 ↑		⑦場面のイメージとタイトルに合う ように朗読で表現する。 ↑
C_手続き的知識				説明する	構造化する	撮影する
学習者の動詞						
道具・手立 (IT含む)				ロイノート・スクール	ロイノート・スクール	ロイノート・スクール
学習目標						⑧練習した朗読を聞き、イメージ画 りに伝えられているのか振り返り、 印象談評する。
D_メタ認知的知識					結論付ける	省みる
学習者の動詞						
道具・手立 (IT含む)					ロイノート・スクール	ロイノート・スクール
学習目標						
学習者の動詞						変更する
道具・手立 (IT含む)						ロイノート・スクール

3観点

知識・技能

思考・判断・表現

学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	作品の特徴を活かして朗読するなどして古典の世界に親し んでいる。現代語訳や語注などを手がかかりに作品を読むこ とを通して、古典に現れたものの見方や考え方を知ってい る。	登場人物の言動の意味などについて考え て、内容を解釈して朗読したり表現したり している。	進んで古典に親れたものの見方や考え方を知り、朗 読をしようとしていたり、登場人物の言動の意味に ついて考えたいことを伝え合おうとしている。
評価方法 単元テスト、成果物、演技等	ワークシート・単元テスト	成果物	成果物
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	単元の途中	単元の途中と最後	単元の最後

国語科学習指導案

日 時 令和3年12月20日(月)
 対 象 2年1組28名
 授業者 主任教諭 賀嶋 盛政
 場 所 4階2年1組教室

1 単元名 「いにしへの心を訪ねる」「平家物語」「徒然草」

2 本時の目標 (ねらい)

- ・ 作品の特徴や登場人物の心情を考えた朗読をする。

3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 【学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標と流れを確認する。 ・ 「デジタル教科書」 で漢字の読みの復習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の朗読を班で録音し、最終的には「平家物語」の内容をより深くつかんでいくということを確認する。 	
展開	40	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までに捉えた場面や状況を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートや「デジタル教科書」をスクリーンに映す。 ・ 本文の大まかな内容は前時までのワークシートや「デジタル教科書」の資料を基に確認する。 	
		タキノミーより：「分析する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ どのように表現したいかのイメージを「ロイロノート・スクール」のシンキングツールを活用し、班で考え、話し合っテタイトルを付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「○○な物語」「○○い物語」とイメージを形容動詞や形容詞で表現させるようにヒントを出す。 	
		タキノミーより：「創造する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ロイロノート・スクール」の録音機能を活用し、班で分担して録音し、班内で朗読を発表して聞き合い、イメージに合っているか確認・修正をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分担ごとにカードに録音し、録音したものを班長に集約する方法をとらせる。また、聞き直して考えさせ、修正を加えていけると良い。 ・ 「一番工夫したところはどこか」「なぜ、その部分をそのように読んだのか」という問いに答えられるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語の内容を解釈して表現した朗読ができた。 【思・判・表】
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ロイロノート・スクール」のテキストを使って、本時を振り返り、どのような工夫をしたら上手く伝わったかななどを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は他の班の朗読を聞き合い、場面の雰囲気や人物の心情をより的確に表現するための工夫を考えたり、そこから読み取れる作品のものの見方や考え方に迫ったりしていくことを伝える。 	

4 タキノミーに対応した評価

- ・ 作品全体や該当場面の内容・雰囲気を読んで分析し、朗読で表現することができる。(分析する)
- ・ 朗読で表現したことを確認・修正することができる。(創造する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

NELM
2020年6月作成

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	①本文の単語を聞き、詩の表現や比喩について知る。	②本文中に書出する言葉や漢字を理解する (朗読の課題)。				
A_ 事実的知識	判読を聞く	記憶する				
学習目標	デジタル教科書 大型モニター	ワークシート				
学習者の動詞		②比喩についての概要や、単元中で用いられている技法およびその効果について理解する。				
B_ 概念的知識		分類する				
学習目標		ノート ワークシート				
学習者の動詞			整理する			
道具・手立 (IT含む)			ロイノノート・スクール			
学習目標						
学習者の動詞				発表する	評価する	作成する
道具・手立 (IT含む)				ロイノノート・スクール 大型モニター	ロイノノート・スクール	ロイノノート・スクール
学習目標						
学習者の動詞					再構成する	
道具・手立 (IT含む)					ロイノノート・スクール	
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (IT含む)						

3観点		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
評価規準 単元を通して育むチカラ		比較などの表現技法を理解し使用することができる。	効果的な比喩の表現について考え、自身が好きな商品(菓子、文房具等)についてのクイズを作る際に的確な比喩を使うことができる。	比喩を持つ効果に気づくとともに、その効果を表現に生かそうとしている。
評価方法 単元テスト、成果物、演技等		ワークシート ロイノノート・スクールの記述	ロイノノート・スクールの記述	観察
評価の機会 単元の途中、最後、等 評価のタイミンク		ロイノノート・スクールの提出箱	ロイノノート・スクールの提出箱	机間巡視

国語科学習指導案

日 時 令和4年7月7日(木)
 対 象 1年1組 計31名
 授業者 教諭 石井 英友
 場 所 5階1年1組教室

- 1 単元名 「比喻で広がる言葉の世界」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・「比喻クイズ」を作成し、効果的な比喻の表現について理解する。
- 3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	5	・「 デジタル教科書 」を大型モニターに写し、前時において使用されていた比喻表現を確認する。本文の比喻表現について確認する。	・ワークシートを用い、比喻の概要やその効果について復習をする。	
展開①	15	タキソノミーより：「作る」の実践		
		・「 ロイロノート・スクール 」のカードを用いて、自分の好きな商品(菓子・文房具等)が答えとなる「 比喻クイズ 」を作成する。	・「 比喻クイズ 」のフォーマットは「 ロイロノート・スクール 」上で予め作成する。 ・「○○のような形状」「○○のような味」「自分にとって○○のような存在」などの項目に当てはまるものを答えとするように促す。 ・ 比喻表現 については、「クラスメイトに伝わりやすいもの」にするよう促す。	・ 比喻 などの表現技法を理解し使うことができる。 【知・技】
展開②	25	・班で、自身が作成した「 比喻クイズ 」を出し合う。	・「わかりやすいかどうか」「伝わりやすいかどうか」「答えを聞いて、納得できるかどうか」などを判断基準とすることを伝える。	
		タキソノミーより：「再構成する」の実践		
		・友達からのアドバイスを受けて、自身のクイズを改良する。 ・班長が班員のクイズを集約し、「 ロイロノート・スクール 」の提出箱に提出する。	・「 ロイロノート・スクール 」の生徒間共有をオンにする。	・効果的な 比喻 の表現について考え、自身が好きな商品(菓子、文房具など)についてのクイズを作る際に的確な 比喻 を使うことができる。 【思・判・表】
まとめ	5	・次時の展開について確認する。	・次時において、班ごとに 比喻クイズ を発表することを伝える。 ・次時において、他の班の 比喻クイズ について評価することを伝える。	

- 4 タキソノミーに対応した評価
 - ・**比喻**の表現技法を理解し、的確な表現を考えて「**比喻クイズ**」を作成することができる。(作る)
 - ・他の班員のアドバイスを受けて、自身の作品を改良することができる。(再構築する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	①-1 知識2日目の行程を立ててほしいという依頼に対し、依頼者の要望を理解する。			①-2 そもそも旅行の目的は何かと尋ねる。依頼者はどこまでかのような知識を得る。		
A_ 事実的知識		記述する		推論する		
道具・手立 (IT含む)		ワークシート		ワークシート		
学習目標	②-2 検索となる観光スポットを調べる。				④-2 ④-5 プレゼンテーション資料を作成する。	
B_ 概念的知識			インターネットで検索する		批評する 推敲する	考察する
学習者の動詞	インターネット				Keynote スクールワーク 電子黒板	Keynote スクールワーク
道具・手立 (IT含む)						
学習目標	③-1 提案する観光プランの発表、ルートを組み合わせ、作成する。		③-1 提案する観光プランの発表、ルートを組み合わせ、作成する。	④-1 提案する観光プランの発表、ルートを組み合わせ、作成する。	④-2 振り返りを行い、次に生かす。	
C_ 手続き的知識			考えた方略を 実行する	分類・比較する	内省する	
学習者の動詞			ロイロノート・スクール	ロイロノート・スクール	ワークシート	
道具・手立 (IT含む)						④-1 依頼者に向けて、プレゼンテーションを行う。
学習目標						
D_ メタ認知的知識						考察する
学習者の動詞						Keynote スクールワーク 電子黒板
道具・手立 (IT含む)						

3観点

知識・技能

思考・判断・表現

学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	よりよい発表の仕方について理解している。発表資料を工夫して作成することができる。	依頼者の要望を適切に理解し、それを組み入れ提案することができる。	依頼者の要望を理解し、課題に対し、主体的に追求することができる。
評価方法 単元テスト、成果物、実演等	成果物 振り返りシート	実演	観察 振り返りシート
評価の機会 単元の途中、最後、等 評価のタイミング	単元の最後	発表	単元の途中、最後

国語科学習指導案

日 時 令和4年7月7日(木)
 対 象 2年1組 計23名
 授業者 教諭 磯崎 健太
 場 所 4階2年1組教室

1 単元名 「多様な視点から－魅力的な提案をしよう」

2 本時の目標 (ねらい)

- ・情報を整理しルートを決め、提示資料を作成する。

3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「Monoxer」 で漢字練習をする。 ・ 本時の目標と流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流れをつかませ、活動を活発化させる。 	
展開① 15	タキノミーより：「分析する」の実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄2日目のルートを多角的な視点から決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に多角的に分析した観光スポットから選び、ルートを 「ロイロノート・スクール」 で作成する。 	
展開② 20	タキノミーより：「考案する」の実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーションのためのスライドを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉だけの説明では不十分なものを、 「Keynote」 を使いスライドを作成する。 ・ 「スクールワーク」 で共同作業をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに沿った沖縄の行程について、発表資料をつくり、表現することができる。 【思・判・表】
まとめ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「Keynote」 は 「スクールワーク」 を使って、提出するように伝える。 	

4 タキノミーに対応した評価

- ・ 様々な観光スポットを依頼者の要望に沿って考え、組み立てることができる。(分析する)
- ・ テーマに沿った沖縄の行程について、発表資料をつくり、表現することができる。(考案する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

2020年6月作成

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	①-2語句の知識をつかむ。 ①-2語句の知識をつかむ。	①-4 ポラリティについて意味を把握する。				
A_ 事実的知識	通読する 専門用語や語句を調べる	検索する				
学習目標	デジタル教科書 インターネット検索	インターネット検索				
学習者の動詞	②-1観点を元に裏にまでとられる。	②-2それぞれの記事の意図を説明する。	②-3 それぞれの記事を評価する。			
B_ 概念的知識		比較する 分類する	説明する	価値付ける		
学習目標		ロイノート・スクール	ロイノート・スクール	ロイノート・スクール		
学習者の動詞		③別の記事を比較しまとめる。				④記事の問題解決に向けて発言する
C_ 手続的知識		比較する 分類する				解決する 考案する
学習目標		ロイノート・スクール				ロイノート・スクール
学習者の動詞						
D_ メタ認知的知識						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						

3観点 知識・技能 思考・判断・表現 学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	文脈における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むことができる。	集めた材料の信頼性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。	課題の意味について考え、比較分類を通して課題解決に向かおうとしている。
評価方法 単元テスト、成果物、実演等	ワークシート ロイノート・スクールの提出物	成果物	成果物
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	単元の途中	単元の最後	単元の途中

国語科学習指導案

日 時 令和4年7月7日(木)
 対 象 3年1組 計27名
 授業者 主任教諭 賀嶋 盛政
 場 所 3階3年1組教室

- 1 単元名 「情報社会を生きる」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価する。
- 3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 【学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 8	<ul style="list-style-type: none"> ・「Monoxer」で漢字の学習をする。 ・本時の流れの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を観点ごとに比較し、筆者の意図をつかみ、どのような表現が伝わりやすいか評価をしていくということを伝える。 	
展開 37	<ul style="list-style-type: none"> ・「デジタル教科書」をスクリーンに映し、前時までで捉えた部分を確認する。 ・2つの記事を比較し、気付いたことや考えたことを表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の大まかな内容は前時までのワークシートや「デジタル教科書」の資料を基に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の記事を比較し、表現の仕方の特徴を捉えながら記事のわかりやすさについて評価できる。 【思・判・表】
	タキソノミーより：「比較する・分類する」の実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ・班でまとめたものを参考にして、記事の意図が最も伝わりやすかった表現を共有ノートにまとめ、代表が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」(共有ノート・シンキングツール)を活用し、「見だし」、「リード部」、「本文」、「写真」の観点を基に、協働作業で表をまとめていく。 	
タキソノミーより：「説明する・価値付ける」の実践			
まとめ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返って、どのような表現をすると意図が伝わるかなどを「ロイロノート・スクール」を活用して全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」でAの記事とBの記事の共有ノートを作り、シンキングツールを用いて、それぞれの記事を評価する。記事の表現や内容を根拠として、筆者の意図に沿っているかを理解しながら考えが述べられるように指示する。 ・各記事が何をもって「分かりやすい表現」と評価しているのかを答えられるとよい。 	
4	タキソノミーに対応した評価 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の記事の違いを比較して表にまとめ。表現の仕方の違いを捉えられる。(比較する・分類する) ・意図や目的と関連付けて、表現の違いや工夫について理解し評価できる。(説明する・価値付ける) 		

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	単元中に新出する言葉や漢字を理解する。(前回の課題)					
学習目標	→	→	→	→	→	→
学習者の動詞	記憶する	判読を聞く	思い出す			
道具・手立 (ICT含む)	ワークシート	デジタル教科書 大型モニター	ロイロノート・スクール			
学習目標	→	→	→	→	→	→
学習者の動詞		分類する	表にまとめる			
道具・手立 (ICT含む)		教科書、ワークシート	ロイロノート・スクール			
学習目標						
学習者の動詞				分析する	評価する	
道具・手立 (ICT含む)				ロイロノート・スクール	ロイロノート・スクール	
学習目標				→	→	
学習者の動詞				推論する		
道具・手立 (ICT含む)				ロイロノート・スクール		

3観点	知識・技能		思考・判断・表現		学びに向かう力・人間性等	
	評価規準 単元を通して育むチカラ	比較表現について理解し、本文中から抜き出し、その効果について考えることができる。	場面と場面、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈することができる。	場面と場面、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈することができる。	進んで場面と場面、場面と描写などを結びつけて、内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝えようとしている。	ワークシート ロイロノート・スクール
評価方法 単元テスト、成果物、演技等	ロイロノート・スクール 定期テスト	ロイロノート・スクール	ワークシート ロイロノート・スクール			
評価の機会 単元の途中、最後、等 評価のタイミング	単元の最後	単元の最後	単元の最後	単元の最後		単元の最後・単元の途中

国語科学習指導案

日 時 令和4年9月5日(月)
 対 象 1年2組 計31名
 授業者 教諭 石井 英友
 場 所 5階 1年2組教室

- 1 単元名 「星の花が降るころに」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・「ロイロノート・スクール」を使用し、時間や場所、主人公の気持ちが読み取れる描写を表にまとめ、変化を読みとる。
- 3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「デジタル教科書」を大型モニターに写し、おおまかに4つの場面での出来事を振り返る。 ・本文を4つの場面に分けたことを思い出させ、本時では時間や場所、主人公の気持ちが読み取れる描写を探していくことを伝える。 	
展開①	15	タキソノミーより：「表にまとめる」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」で配布された表に、時間・場所についての描写をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例として、第1場面における描写を提示する。 ・4つの場面における時間・場所についての描写を、場面につき1文ずつ個人で見付けるよう指示する。その後、周囲の生徒と相談して完成させる。 	
展開②	25	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の気持ちについての描写を探し、教科書にマーキングする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1場面における描写は授業者が例示する。 ・第2場面以降は、時間を区切り、個人でマーキングをさせる。 ・個人での活動が終了したら、班での活動とし、それぞれがマーキングした描写を共有する。 	
		タキソノミーより：「表にまとめる」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」で配布された表に、主人公についての描写をまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができる。 【思・判・表】
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の展開について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時において、同じ物や場所に着目し、どのような変化が読み取れるか話し合うことを予告する。 	

- 4 タキソノミーに対応した評価
 - ・時間や場所、主人公の気持ちが書かれている描写を表にまとめ、変化を読みとることができる。(表にまとめる)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)



知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
A_ 事実的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	①住民意識調査の区分運の回答と区 の地理的地域も把握し、墨田区が 自由なまちづくりを知る。				
	学習目標	比較する				
	学習者の動詞					
	道具・手立 (IT含む)	ロイロノート・スクール				
B_ 概念的知識	学習目標	⑥地方自治と国の政治の仕組みの相 互理解する。	③検討したアイデアを墨田区の中 学三年生に発表する。	②墨田区の課題を調査し、課題を解 決するためのアイデアを検討す る。		
	学習者の動詞	比較する	プレゼンテーションする	調査する		
	道具・手立 (IT含む)	ロイロノート・スクール	ロイロノート・スクール	ロイロノート・スクール		
	学習目標	⑦墨田区の財政の仕組みを把握し、 墨田区が抱えている課題について多 面的・多角的に考察する。				⑧墨田区と市並区の中学生考え提案 を比較する。 ⑨墨田区と市並区の中学生考え提案 を比較する。
C_ 手続的知識	学習者の動詞	説明する			比較する	考案する
	道具・手立 (IT含む)	ロイロノート・スクール			ロイロノート・スクール Microsoft Teams	ロイロノート・スクール
	学習目標	⑧よりよい墨田区にするために、ど のように行動することができるか考 える。				
	学習者の動詞	考えた方策を実行する				
D_ メタ認知的知識	道具・手立 (IT含む)		ロイロノート・スクール			
	学習目標					
	学習者の動詞					
	道具・手立 (IT含む)					

3観点		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
評価規準	地方自治の基本的な考え方や、首長と議会の二つの 機能を中心に行われる政治のしくみ、住民の権利や 義務について理解している。		対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主 義などに着目して、地方自治体が果たしている役割や地方 財政のあり方などについて多面的・多角的に考察、構想 し、表現している。	地方自治体で行われている実際の政治と身近な暮らしとの 関連や地域の政治に参加することの意義などについて、現 代社会に与えられる課題の解決を視野に主体的に関わりと している。
評価方法	単元テスト、成果物、演習等	単元テスト	ロイロノートの記述	観察
評価の機会	単元の途中、最後、等評価のタイミング	単元の最後	単元の途中	単元の途中・最後

社会科（公民的分野）学習指導案

日 時 令和3年10月15日（金）
 対 象 3年1組 計33名
 授業者 主幹教諭 古賀 隆一郎
 場 所 3階3年1組教室

- 1 単元名 「地方自治と住民の参加」
- 2 本時の目標（ねらい）
 - ・墨田区のまちづくりのアイデアを発表し、杉並区と比較することを通して、よりより墨田区について考える。
- 3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 <small>【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】</small>	指導上の留意点	評価規準
導入 5	<ul style="list-style-type: none"> ・住民意識調査の自分達の回答と区の目標値を比較した結果を確認する。 ・本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさとすみだ」の住民意識調査の目標値と自分達で回答した数値とを比較し、「すみだのまちづくり」基本目標について確認する。 	
展開 ① 30	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">タキノミーより：「プレゼンテーションする」の実践</div> <ul style="list-style-type: none"> ・検討したアイデアを杉並区の中学生に提言する。 ・杉並区の中学生が検討したアイデアを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」を使ってまとめた、まちづくりのアイデアについて、グループごとに発表させる。 ・「ロイロノート・スクール」の画面共有を行い、発表させる。 ・自分たちが調査した墨田区との違いという視点で杉並区の中学生が検討したアイデアを聞くように、伝える。 ・発表を聞きながら、参考になる意見はメモを取るように指示する。 	
展開 ② 10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">タキノミーより：「比較する」の実践</div> <ul style="list-style-type: none"> ・墨田区と杉並区の中学生が考えた提言を比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」の「テキスト」に、提言を比較して気付いたことを記入し、提出箱に提出させる。 ・提出箱を共有し、他の生徒の意見を確認させる。 ・「ロイロノート・スクール」に出された生徒の意見を比較し、両校で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の側面や立場から多面的・多角的に考察している。 【思・判・表】
まとめ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」の「テキスト」に、本時の振り返りを記入し、提出箱に提出させる。 	

- 4 タキノミーに対応した評価
 - ・検討したアイデアを杉並区の中学生に提言することができる。（プレゼンテーションする）
 - ・墨田区と杉並区の中学生が考えた提言を、様々な側面から考察することができる。（比較する）

社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 令和3年11月18日（木）
 対 象 1年1組 計22名
 授業者 主幹教諭 古賀 隆一郎
 場 所 5階第2音楽室

- 1 単元名 「北アメリカ州」
- 2 本時の目標（ねらい）
 - ・調査した結果から北アメリカ州の特色を動画で表現する。
- 3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 <small>【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】</small>	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を確認する。 ・本時のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【Monoxer】 で小テストを行い、既習事項の確認を行う。 	
展開①	30	タキソノミーより：「動画で表現する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカ州の様子を紹介する動画を作成する。 ・動画を撮影する。 ・動画を編集する。 ・スライドを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンバックを背景に【Pages】 で作成した原稿を基に、撮影するように指示する。 ・班員で協力して互いに撮影し合うように指示する。 ・【iMovie】 を使って、撮影した動画のクロマキー合成を行う。 ・机間指導を行う。 ・言葉だけの説明では不十分なものを、【Keynote】 を使ってスライドを作成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った北アメリカ州の様子について、動画を使って、表現することができる。 【思・判・表】
展開②	10	タキソノミーより：「批評する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・班員の作成した動画を鑑賞し、改善点をアドバイスする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班員の動画をお互いに鑑賞して、改善点を【ロイロノート・スクール】 に記入するように伝える。 	
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品は【スクールワーク】 を使って、提出するように伝える。 	

- 4 タキソノミーに対応した評価
 - ・調査した原稿を基に、グリーンバックを背景に動画を撮影し、「iMovie」で合成することができる。（動画で表現する）
 - ・班員の作成した動画を鑑賞し、改善点をアドバイスすることができる。（批評する）

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
A_事象的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	③「別荘」と「公正」の概念を理解する。 → 一般化する ロイノート・スケール				
B_概念的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立 (10(含む))	①人間は誰もが社会的存在であること②話し合いの様々な方法の場所と場所を説明する。 → 説明する ロイノート・スケール				
C_手続的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立 (10(含む))	③「別荘」と「公正」の概念を説明する。 → 発見する ロイノート・スケール	④「各層コンテナーの課題」を解決し、「別荘」と「公正」の視点から、多面的に考察し、説明できる。	⑤「みんなが気持ちよく利用できる公園のルール」を考察する。	⑥「みんなが気持ちよく利用できる公園のルール」を考察する。	
D_メタ認知的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立 (10(含む))	⑦「みんなが気持ちよく利用できる公園のルール」を考察する。 → 変容する ロイノート・スケール	⑧「みんなが気持ちよく利用できる公園のルール」を考察する。 → 分類・比較する ロイノート・スケール シンキングツール	⑨「みんなが気持ちよく利用できる公園のルール」を考察する。 → 批判する ロイノート・スケール Numbers	⑩「みんなが気持ちよく利用できる公園のルール」を考察する。 → 考察する ロイノート・スケール Microsoft Teams	

3観点

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
単元を通して育むチカラ 単元を通して育むチカラ	現代社会の事象・事象の事象となる事象として、対立と合意、初等と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会との関係、きまりの役割について多面的に考察し、表現している。	現代社会を捉える枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうと	
評価方法	単元テスト、成果物、実演等	ロイノート・スケールの記述	観察
評価の機会	単元の途中、最後、等 評価のタイミング	単元の最後	単元の途中

社会科（公民的分野）学習指導案

日 時 令和 4 年 7 月 7 日（木）
 対 象 3 年 2 組 計 2 7 名
 授業者 主幹教諭 古賀 隆一郎
 場 所 5階 第 2 音 楽 室
 5階 英 語 室
 5階 1 年 3 組

- 1 単元名 「3節 私たちがつくるこれからの社会」
- 2 本時の目標（ねらい）
 - ・公園利用者の対立を調整し、合意に至るルール作りのあり方について考える。
 - ・錦糸中学校と杉並区立泉南中学校の生徒の交流を通して、対立する意見を調整しながら、合意を得ることの意義を理解する。
- 3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 5	・本日の授業の流れと前時に学習した「効率」と「公正」の考え方を確認する。	・ 「Keynote」 を書き出した JPEG を、 「ロイロノート・スクール」 で画面共有しながら説明する。	
展開 ① 30	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">タキソノミーより：「考案する」の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを通して、「みんなが気持ちよく利用できる公園のルール」を考案する。 ・様々な立場の対立点を整理し、解決に向けて合意形成を行う。 ・作成したシンキングツールを「ロイロノート・スクール」の提出箱に提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに移動し、錦糸中学校と杉並区立泉南中学校の3教室を「Microsoft Teams」でつなぐ。 ・墨田区の公園で禁止されているボール遊びを通して、「みんなが気持ちよく利用できる公園のルール」について、考えさせる。 ・グループごとに、「ロイロノート・スクール」の共有ノートを作成し、共有ノート上でテキストに意見を書き込みながら、グループ内の意見が合意に近づくようにする。 ・「効率」と「公正」の観点を大切に、両校で話し合いをしながら、シンキングツールを作成するように指示する。 	・「効率」と「公正」の考え方から多面的・多角的に考察し、表現している。【思・判・表】
展開 ② 10	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">タキソノミーより：「比較する」の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに作成した「みんなが気持ちよく利用できる公園のルール」を比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの教室で作成したシンキングツールを比較することで、「公正」と「効率」の観点からよりよいルールになっているかを分析し、比較をする。 	
まとめ 5	・本時の振り返りを行う。	・ 「ロイロノート・スクール」 で、カードを配信し、提出箱に提出するように指示する。	

- 4 タキソノミーに対応した評価
 - ・様々な立場の対立点を整理し、解決に向けて、「みんなが気持ちよく利用できる公園のルール」を考案し、合意に近付けることができる。（考案する）
 - ・「みんなが気持ちよく利用できる公園のルール」を「公正」と「効率」の観点からよりよいルールになっているかを分析し、比較をすることができる。（比較する）

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	〈社会〉① 四大公害の内容を確認し、環境問題に関する行政の法整備について、理解する。	〈理科〉③ 生物圏について理解する。				
A_ 事実的知識	学習目標	理解する				
	学習者の動詞	思い出す 記憶する				
B_ 概念的知識	道具・手立 (IT含む)	ロイロノート・スクール	ロイロノート・スクール			
	学習目標	〈社会〉② 自治体のごみの分別のルールがどうなっているかを考えさせ、なぜ、ゴミの分別が必要かを考える。	〈理科〉② SDGsの観点から、自治体のごみの分別のルールがどうなっているかを考えさせ、なぜ、ゴミの分別が必要かを考える。	〈理科〉② SDGsの観点から、自治体のごみの分別のルールがどうなっているかを考えさせ、なぜ、ゴミの分別が必要かを考える。		
C_ 手続き的知識	学習者の動詞	議論する	〈社〉プレゼンテーションする 〈理〉実験する	考察する		
	道具・手立 (IT含む)	ロイロノート・スクール	ロイロノート・スクール	ロイロノート・スクールのワークシート		
D_ メタ認知的知識	学習目標					
	学習者の動詞				討論する 批評する	
D_ メタ認知的知識	道具・手立 (IT含む)				スクリーンワーク ロイロノート・スクール	〈STEAM〉① SDGsの観点から、隅田川のプラスチックごみ問題を解決するためのアイデアをまとめる。
	学習目標					考察する
道具・手立 (IT含む)						iMovie・Keynote Pages・GarageBand スクリーンワーク

3観点

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
単元を通して育むチカラ	〈社会〉の内容を確認し、環境問題に関する行政の法整備について、理解している。 〈理科〉 プラスチックの性質や生物圏について理解している。	SDGsの観点から、隅田川のプラスチックごみ問題を解決するためのアイデアについて、多角的・多角的に考察し、表現している。	隅田川のプラスチックごみ問題を解決するためのアイデアをまとめる活動に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	単元テスト	隅田川のプラスチックごみ問題を解決するためのアイデアをまとめた成果物	ふりかえりフォーム
評価の機会 単元の途中、最後、等 評価のタイミング	単元の最後	単元の途中・単元の最後	単元の途中・単元の最後

社会科・理科（STEAM）学習指導案

日 時 令和4年9月5日（月）
 対 象 3年3組 計 28名
 授業者 主幹教諭 古賀 隆一郎
 教 諭 宇佐見 智子
 場 所 第 2 音 楽 室

- 1 単元名 「プラスチックごみから隅田川を救え！」
- 2 本時の目標（ねらい）
 - ・SDGsの視点から、プラスチックごみから隅田川を救うために、解決のアイデアを提言する。
- 3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 <small>【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】</small>	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・理科・社会でのそれぞれの学習内容を確認する。 ・本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「Kahoot!」でのクイズを通して理科・社会の前時までの学習内容を振り返る。 ・理科・社会科での学習内容を基に、プラスチックごみから隅田川を救うための解決するアイデアを表現する際に、SDGsの視点を大切にすることを伝える。 	
展開	40	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">タキノミーより：「考案する」の実践</div> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに自分たちで選択したアプリケーションを使って、隅田川のプラスチック問題を解決するためのアイデアを表現する。 ・「iMovie」を使って動画で表現する。 ・「Keynote」を使ってアプリを作成する。 ・「Pages」を使って、電子書籍を作成する。 ・「GarageBand」を使って、ラジオ番組を作成する。 ・作成した作品を「スクールワーク」で提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンバック前で撮影して、クロマキー合成をして、動画で表現する。 ・プレゼンテーションタイプを「リンクのみ」にし、共同制作でアプリを作成する。 ・共同制作で作成したものを、「EPUB」で書き出して、電子書籍にする。 ・アイデアを録音し、podcastのラジオ番組を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの視点から、自ら選択したアプリケーションを活用し、表現している。 <p style="text-align: center;">【思・判・表】</p>
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「スクールワーク」のふりかえりフォームで本時の振り返りを記入する。 	

- 4 タキノミーに対応した評価
 - ・SDGsの視点から、プラスチックごみから隅田川を救うための解決のアイデアを、アプリケーションを活用し、表現することができる。（考案する）

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)				
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	①角度の種類と性質を理解できる。	②性質を用いて角度を求められる。			
学習目標					
学習者の動詞	定義する 名前を付ける	計算する 適用する			
道具・手立 (ICT含む)	プリント・スクリーン ロイロノート・スクール	Qubena プリント ロイロノート・スクール			
学習目標	⑦異なる図形と合同条件を理解できる。	⑧三角形の角の性質を理解できる。			
学習者の動詞	配置する 紐付ける	説明する 一般化する。			
道具・手立 (ICT含む)	Qubena プリント ロイロノート・スクール	Qubena プリント ロイロノート・スクール			
学習目標	⑤多角形の内外の角を求められる。	⑥三角形の性質から角度を求められる。	④三角形の内外の角を求められる。	③多角形の内外の角を求められる。	②多角形の内外の角を求められる。
学習者の動詞	説明する 一般化する	計算する 適用する	証明する		
道具・手立 (ICT含む)	Qubena プリント ロイロノート・スクール	Qubena プリント ロイロノート・スクール	Qubena プリント ロイロノート・スクール	Qubena プリント ロイロノート・スクール	
学習目標	⑧判定と結論を理解できる。	⑨4章単元テスト・4章の振り返り			
学習者の動詞	適用する	適用する	適用する	適用する	適用する
道具・手立 (ICT含む)		数学の学習記録			
学習目標					
学習者の動詞	類題を作成する 解説する				
道具・手立 (ICT含む)					ロイロノート・スクール

3観点		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
評価規準 単元を通して育むチカラ	平行線や角の性質を理解できる。 合同の意味や、合同条件を理解できる。	平面図形の性質を見いだし、平行線や角の性質から、証明することができる。	平面図形の性質について考えようとしている。	
評価方法 単元テスト、成果物、実演等	小テスト・単元テスト	小テスト・単元テスト	小テスト・単元テスト	生徒観察・数学の学習記録
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	小テスト (単元の途中) 単元テスト (単元の最後)	小テスト (単元の途中) レポート (単元の終盤) 単元テスト (単元の最後)	小テスト (単元の途中) レポート (単元の終盤) 単元テスト (単元の最後)	生徒観察 (毎時間) 数学の学習記録 (毎時間の最後) レポート (単元の終盤)

数学科学習指導案

日 時 令和3年10月15日（金）
 対 象 2年2・3組 計56名
 授業者 主幹教諭 柴田 勇介 3階数学教室
 主任教諭 柴田 浩司 5階数学教室
 教 諭 長塚 雄也 4階数学教室

- 1 単元名 「図形の性質の調べ方」 多角形の内角の和
- 2 本時の目標（ねらい）
 - ・ある多角形の内角の和を、工夫して求める。
 - ・一般的な多角形の内角の和を求める。
- 3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを知る。 ・【Qubena】を用いて、基礎知識の復習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「数学の学習記録」に記入させる。 ・解説を読むよう強調する。 ・「180°」は発問により生徒に答えさせる。図とともにポイントとして板書しておく。 ・小学校での既習事項「三角形の内角の和は180°である」を強調しておく。 	
展開①	20	タキソノミーより：「説明する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・問題1に取り組む。 ・「解答」、「考え方」を【ロイロノート・スクール】にまとめ、各グループで1つ提出する。 ・五角形の内角の和を求める2つの方法を知る。 ・プリントへ記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3～5人程度で小グループ編成を行う。10分程度時間をとる。 ・生徒同士での相談・教え合いを促す。 ・問題はモニターに映すとともに、【ロイロノート・スクール】で共有する。 ・提出箱「五角形の内角の和」を作成。 ・余裕のあるグループには、別の考え方で内角の和を求める方法がないか考えさせる。 ・【ロイロノート・スクール】の「生徒発表」により、各グループの代表者1名に簡単に発表させる。 ・電子黒板を利用し、全体で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多角形の内角の和を求める方法を説明できる。 <li style="text-align: right;">【思・判・表】
展開②	20	タキソノミーより：「一般化する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・問題2に取り組む。 ・表を見ながら規則性がないか考える。 ・「n角形の内角の和が、$180^\circ \times (n-2)$で表せる」ことを知る。 〈教科書P120〉 ・問1に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での相談を認め、教え合いを促す。 ・適宜、発問をしながら進める。 ・表とともにポイントとして板書する。 ・余裕のある生徒には発展プリントを配布する。 ・電子黒板で、全体で問1を確認する。 ・スライドは、【ロイロノート・スクール】で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規則性を見だし、$180^\circ \times (n-2)$を導き出している。 <li style="text-align: right;">【思・判・表】
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 ・【Qubena】を用いて、本時の復習として家庭学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「数学の学習記録」に自己評価と振り返りをさせる。 ・次回予告（多角形の外角の和）する。 	

- 4 タキソノミーに対応した評価
 - ・多角形の内角の和を求める方法を考察し、説明することができる。（説明する）
 - ・内角の和を一般的に求める方法を考え、式に表すことができる。（一般化する）

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	①学習三角形の定義と性質を理解できる。 ⑦平行四辺形の定義と性質を理解できる。	定義する 名前を付ける 定義する				
A_事実的知識	学習目標 道具・手立 (ICT含む) Oubena 電子黒板	③直角三角形の合同条件を理解し、④合同条件を使い、合同の証明をすることができる。 ④平行線を利用して、等しい角を証明する。				
B_概念的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立 (ICT含む) Oubena 電子黒板	①一般化する。説明する ②一般化する。関係性を見いだす ③等角三角形の性質を理解して、④等角三角形の性質を説明することができる。 ⑤平行四辺形となる条件を説明する。	適用する 説明する 適用する 適用する 適用する	⑥平行四辺形となることを論理的に証明できる。 ⑦「平行四辺形」の性質を説明できる。		
C_手続的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立 (ICT含む) Oubena 電子黒板	①等角三角形の性質を理解して、④等角三角形の性質を説明することができる。 ⑤平行四辺形となる条件を説明する。	適用する 説明する 適用する 適用する 適用する	⑥平行四辺形となることを論理的に証明できる。 ⑦「平行四辺形」の性質を説明できる。	批判する	
D_メタ認知的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立 (ICT含む) Oubena 電子黒板	①等角三角形の性質を理解して、④等角三角形の性質を説明することができる。 ⑤平行四辺形となる条件を説明する。	適用する 説明する 適用する 適用する 適用する	⑥平行四辺形となることを論理的に証明できる。 ⑦「平行四辺形」の性質を説明できる。	批判する	種類を作成する 解説する ロイノート・スクール

3観点		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
評価規準 単元を通して育むチカラ		証明の必要性と意味及びその方法について理解している。 定義、定理の意味を理解している。	三角形の合同条件などを基にして様々な図形の性質を論理的に確かめることができる。 様々な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。	証明の必要性と意味を考えようとしている。 図形の合同について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
評価方法 単元テスト、成果物、実演等		小テスト・単元テスト	小テスト・単元テストレポート	生徒観察・数学の学習記録レポート
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング		小テスト (単元の途中) 単元テスト (単元の最後)	小テスト (単元の途中) レポート (単元の終盤) 単元テスト (単元の最後)	生徒観察 (毎時間) レポート (単元の終盤) 数学の学習記録 (毎時間の最後)

数学科学習指導案

日 時 令和 3 年 12 月 20 日 (月)
 対 象 2 年 2 ・ 3 組 計 5 6 名
 授業者 主幹教諭 柴田 勇介 4階2年3組教室
 主任教諭 柴田 浩司 4階2年2組教室
 教 諭 長塚 雄也 4階 数 学 教 室

- 1 単元名 「三角形・四角形」 平行四辺形になるための条件
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・平行四辺形であることを論理的に証明する。
 - ・証明が論理的に正しいものになっているか判断し、正しく直す。
- 3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを知る。 ・「Qubena」を用いて、基礎知識の復習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「数学の学習記録」に記入させる。 ・解説・ヒントを参考にするよう強調する。 ・平行四辺形となるための条件が5つあったことを強調する。 	
展開①	20	タキノミーより：「適用する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・前時に他グループの作成した問題に取り組む。 ・解答を「ロイロノート・スクール」にまとめ、作成したグループに送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」の提出箱を共有する。 ・グループごとに「必ず取り組む問題」を設定し、個人でその解答を作成させる。 ・余裕のある生徒には、他のグループの問題にも取り組ませる。自信のない生徒には、空欄補充の問題に取り組ませる。 ・「ロイロノート・スクール」の生徒間通信ができるようにし自分の証明を作成したグループに送るよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平行四辺形になる条件を理解し、論理的に証明できる。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>
展開②	20	タキノミーより：「批評する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・送られた証明が論理的に正しいものになっているか添削する。 ・前時に作成した解説音声付きの模範解答を、添削した解答とともに、「ロイロノート・スクール」で送る。 ・模範解答を参照する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループごとに証明の添削を行う。 ・生徒同士で相談しながら添削をするように促す。特に正誤が分からない場合は、グループ内で協議するよう促す。 ・「ロイロノート・スクール」の生徒間通信ができるようにする。 ・添削が終了したグループは、模範解答を参照に、解き直しをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的に証明できているか判断できる。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 ・「Qubena」を用いて、本時の復習として家庭学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「数学の学習記録」に自己評価と振り返りをさせる。 ・次回予告 (特別な平行四辺形) する。 	

- 4 タキノミーに対応した評価
 - ・平行四辺形になるための条件のうち、何を使うのかを考察し、論理的に証明することができる。(適用する)
 - ・論理的に説明できているのかを判断することができる。(批評する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て		①各標本と家理の関係を描き、その異なる特徴を一次関数と対応することを理解する。				
A_事象的知識		グラフに表す 記憶する 大型モニター Qubena				
学習目標		④変化の割合について理解し求める。①一次関数の特徴を分析し、簡単にグラフから式を求めること⑤⑥一次関数と比例のグラフと比較することができる。				⑦これまで調べた式・表・グラフをまとめる。
学習者の動詞		計算する 説明する 大型モニター ロイノート・スケール Desmos Qubena	グラフをかき 考えた方法で計算する 大型モニター Desmos Qubena	分析する 分類する 比較する 考察する 比較する 分類する 比較する 考察する 比較する 分類する 比較する 考察する 比較する 分類する 比較する 考察する 比較する		構造化する 表現する ロイノート・スケール
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						

3観点		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
評価規準 単元を通して育むチカラ	一次関数の意味を理解し、具体的な事象の中にある2つの数値の関係をもとに一次関数の式で表すことができる。一次関数の変化の割合を理解し、二次関数の増加率を基に一次関数の変化の割合を求めることができる。	一次関数の意味を理解し、具体的な事象の中にある2つの数値の関係をもとに一次関数の式で表すことができる。一次関数の変化の割合を理解し、二次関数の増加率を基に一次関数の変化の割合を求めることができる。	一次関数として表されることがある。一次関数の変化の割合が一定であることを見いだすことができる。	一次関数の関心をもつ。具体的な事象の中にある2つの数値の関係を見いだしたり、その関係を式で表したりしようとしている。一次関数の変化の割合の値に傾斜をもち、変化の割合を調べようとしている。
評価方法 単元テスト、成果物、実演等	単元テスト 定期考査 Qubenaの取り組み結果	単元テスト 定期考査 Qubenaの取り組み結果	単元テスト 定期考査 Qubenaの取り組み結果 まとめレポート	授業中の取り組みの観察
評価の機会 単元の途中、最後、等 評価のタイムライン	結果が出たら評価する	結果が出たら評価する	結果が出たら評価する	単元を通じて常に

数学科学習指導案

日 時 令和 4 年 9 月 5 日 (月)
 対 象 2 年 1 ・ 2 組 計 47 名
 授業者 主幹教諭 柴田 勇介 4 階 2年1組
 教 諭 桜井 宏 4 階 2年2組
 教 諭 三浦 隆 4 階 数学教室

- 1 単元名 「一次関数」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 ・これまで学習した関数と比較することで、一次関数の特徴を調べる。
- 3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 20	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、「Qubena」、「ロイロノート・スクール」を使って、夏休み前に学習した内容の復習を行う。 ・身の回りにある関数で表せる関係を式・表・グラフで表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟の程度に応じて、$y = ax^2$などの式で表すことが難しくとも、表とグラフから変化の割合が一定でないことを読み取ることができる関数も考えさせる。 ・「Desmos」を利用して式からグラフを表示する方法を紹介する。 ・「ロイロノート・スクール」で身の回りにある関数1つにつき1つのまとめカードを作成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な関数を式・表・グラフで表すことができる。 <p style="text-align: right;">【知・技】</p>
展開 ① 15	タキソノミーより：「分類する」「比較する」の実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの関数(比例・反比例・一次関数など)を分類・比較する。 ・導入で考えた身の回りにある関数をグループで分類・比較する。 ・分かった特徴をクラスで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟の程度が低いクラスでは、教員から分類・比較の着目点や方法について必要に応じて助言を与える。 ・まとめカードを「ロイロノート・スクール」のグループごとの共有ノートに送り、分類して特徴をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一次関数の変化の割合が一定であることを見いだすことができる。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>
展開 ② 10	タキソノミーより：「分析する」の実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ・一次関数を特徴付ける性質を分析する。 ・根拠を明らかにし、一次関数の特徴を表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一次関数を特徴付ける性質はどのようなものがあるのか考えさせる。 ・自分が一次関数を最も特徴付けると考えた性質を、「ロイロノート・スクール」で共有させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一次関数の変化の様子に関心をもち、特徴を捉えようとしている。【主】
まとめ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容を整理して、次時に扱う変化の割合に繋げる。 	

- 4 タキソノミーに対応した評価
 ・関数の特徴を協力して分析し、一次関数最大の特徴である変化の割合が一定であることに迫ることができる。(分析する・分類する・比較する)

理科学習指導案

日 時 令和3年10月15日(月)
 対 象 3年2組 計33名
 授業者 主幹教諭 青柳 敦
 場 所 4階 第1理科室

- 1 単元名 「化学変化とイオン」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・薄い塩酸を電気分解することで、発生した物質から、塩酸の組成を考える。
 - ・観察・実験などに関する技能を習得する。
 - ・思考力・判断力・表現力や主体的に探究しようとする態度を養う。
- 3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
5	導入 ・第2学年の学習で行った水の電気分解の結果を思い出す。 ・本時のめあてを確認する。	・既習の内容が習得できているか把握しながら、忘れていた生徒には、結果を確認させる。	
10	タキノミーより：「説明する」の実践		
展開①	・薄い塩酸に電流を流すとどうなるか、仮説を立てて発表する。	・塩酸の成分などを考えながら、電気分解の結果を考え、「 ロイロノート・スクール 」で発表し、共有できるようにする。	・実験結果を予想して、仮説を立てることができる。 【思・判・表】
25	タキノミーより：「実験する」の実践		
展開②	・実験操作の内容を動画で確認する。 ・必要な道具を準備する。	・視覚により、操作方法を理解する。 ・班の実験上、必要なものは使用させる。	
10	タキノミーより：「結論づける」の実践		
まとめ	・実験結果と考察を班で話し合い発表する。 ・片付けを行う。	・他人の意見を共有したり、比較したりして、自分の考えを導き出せるようにする。 ・片付けは、しっかりと行えるようにする。	・話し合いの中で、自分なりの意見を構築することができる。 【思・判・表】

- 4 タキノミーに対応した評価
 - ・塩酸の電気分解の結果を仮説について説明することができる。(説明する)
 - ・正しい手順で実験操作を行うことができる。(実験する)
 - ・実験結果より、理由を考察することができる。(結論付ける)

理科学習指導案

日 時 令和3年11月18日(木)

対 象 2年3組 計28名

授業者 教諭 宇佐見 智子

場 所 4階第2理科室

1 単元名 「大気の様子と日本の四季」

2 本時の目標 (ねらい)

- ・天気図から天気の特徴を読み取り、根拠をもって天気を予想する。

3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の内容を振り返る。 ・本時のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に個人で分析した2日目の天気について班で話し合う。 ・他クラスが作成した天気予報の動画を視聴することで、イメージをもたせる。
展開①	20	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 2px;">タキノミーより：「推論する」の実践</div> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目、2日目の天気図から3日目の天気を予想する。 ・3日目の気圧配置を予想して予想天気図を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは個人で考察する時間を設け、その後班で意見を共有し、考えをまとめる。 ・予想した気象情報についてそのように予想した根拠を明確に記述する。 ・班で1つ、「ロイロノート・スクール」で3日目の予想天気図を作成させる。
展開②	20	<ul style="list-style-type: none"> ・天気予報の原稿を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項と関連付けながら根拠を基に天気の予想をしようとしている。 【思・判・表】
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・天気予報の動画を撮影する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担をし、気象情報以外にも、日常生活に関連する内容も含める。
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・天気予報の原稿を作成し、撮影する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿の作成が終了した班から撮影に入る。電子黒板を使用し、天気図を写しながら天気予報を行う。 ・班長のiPadで撮影をし、「ロイロノート・スクール」に提出する。
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに本時の振り返りを行う。

4 タキノミーに対応した評価

- ・必要な情報を収集し、根拠を基に明日の天気を予想することができた。(推論する)
- ・天気予報の原稿を作成し、撮影することができた。(撮影する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞・手立て	②水溶液における、揮発、溶解、溶液の意味を理解する。	④計算により、質量パーセント濃度の計算ができる。⑤異なる濃度の溶液を混合して濃度を求めることができる。	③濃度の濃度を下げたり、水蒸気、沸騰、凝縮を駆使して濃度を調整することができる。	④水溶液の温度を下げたり、水蒸気、沸騰、凝縮を駆使して濃度を調整することができる。	③他人の実験結果を共有し、再帰論による分析方法を考えることができる。	
A_事象的知識	記憶する	理解する、説明する	実験する	推論する	コメントする ロイノート・スケール	
B_概念的知識		説明する	実験する	推論する		
C_手続き的知識			実験する	推論する	結論付ける	
D_メタ認知的知識						

3観点 知識・技能 思考・判断・表現 学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、水溶液についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	水溶液について、問題を思いだし見出しをもって観察、実験などを行い、物質の性質やその変化における規則性を発見したり表現しているなど、科学的に探求している。	水溶液に関する事象・現象に鑑み、見通しをもつたりふり返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価方法 単元テスト、成果物、実演等	定期テスト 実験操作	定期テスト 小テスト 実験レポート	課題の内容 提出物の継続性
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	定期テスト後 実験後	定期テスト後 レポート提出時	課題提出時

理科学習指導案

日 時 令和3年11月18日(木)
 対 象 1年2組 計22名
 授業者 主幹教諭 青柳 敦
 場 所 4階第1理科室

- 1 単元名 「身のまわりの物質」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連付けて理解する。
 - ・観察、実験などに関する技能を身に付ける。
- 3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 <small>【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】</small>	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・溶質が溶けている状態の粒子モデルで確認する。 ・本時のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粒子モデルが各自理解できているか確認をする。 	
展開①	10	タキソノミーより：「説明する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・塩化ナトリウム水溶液と硝酸カリウム水溶液のうわずみ液を冷やすとどうなるか、仮説を立てて説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・溶解度を考えながら、仮説を立てさせ「ロイノート・スクール」で発表し、共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果を予想して、仮説を立てることができる。 【思・判・表】
展開②	25	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班の実験上、必要なものは使用させる。 	
		タキソノミーより：「実験する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・「デジタル教科書」を見ながら、実験を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護めがねを着用させる。 ・火傷には十分に気を付けて、操作するように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験操作を安全に正しく行うことができる。 【知・技】
まとめ	10	タキソノミーより：「結論づける」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果と考察を班で話し合い発表する。 ・片付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他人の意見を共有したり、比較したりして、自分の考えを導き出せるようにする。 ・片付けは、しっかりと行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの中で、自分の意見を構築することができる。 【思・判・表】

- 4 タキソノミーに対応した評価
 - ・溶液を冷やすとどうなるか。溶解度を考えて仮説について説明することができる。(説明する)
 - ・正しい手順で実験操作を実行することができる。(実験する)
 - ・実験結果より、理由を考察することができる。(結論付ける)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

NELAM
2024年度1学期

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
A_事実的知識		①知識部分溶液に導線を入れたとき の反応の仕組みを電子モデルで理解 する。 推論する 説明する デジタル教科書				
B_概念的知識		⑥様々な電池が生活の中で利用され、 ②変換のイオンへのなりやすさの通 りや大きさの順番を判断できる。 発見する 分類する ロイノノート・スクール Safari	③実験結果から変換のイオンへのな りを確かめるための実験を行う。 実験する ワークシート	④比較する 結論付ける ワークシート ロイノノート・スクール		
C_手続的知識			④データ電池を製作する実験を行い、 ⑦未知の電池を動作する実験を行い、 ⑦未知の電池を動作するための仮説、 改善するための仮説、実験計画を立 てる。 実験する ワークシート	⑤推論する、構造化する 計画する、整理する ワークシート ロイノノート・スクール	⑥結論付ける ワークシート ロイノノート・スクール	⑧解決する ワークシート ロイノノート・スクール
D_メタ認知的知識			⑨-2 2章の内容の振り返りを行う。 考えや成果を 表示する ワークシート			

3観点

知識・技能

思考・判断・表現

学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	化学変化をイオンのモデルと関連づけるから電池につ いての基本的な概念や原理・法則を理解している。 実験に対する基本操作や記録等基本的な技能を身に付 けている。	化学変化とイオンについて関連をもって実験を行い、結 果を分析することができる。 知覚性や関係性を思いだして表現し、探究の過程を振り返 るなど科学的に探究している。	化学変化と電池に関する事象・現象について関連し をもったり振り返ったりするなど科学的に探究しよ うとしている。
評価方法 単元テスト、成果物、演習等	ワークシート 定期テスト 成果物	ワークシート 定期テスト 成果物	ワークシート 行動観察 成果物
評価の機会 単元の途中、最後、等 評価のタイミング	単元の途中 単元の最後	単元の途中 単元の最後	単元の途中 単元の最後

理科学習指導案

日 時 令和 4 年 7 月 7 日 (木)
 対 象 3 年 3 組 計 28 名
 授業者 教 諭 宇 佐 見 智 子
 場 所 4 階 第 1 理 科 室

- 1 単元名 「化学変化とイオン」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・立てた仮説と実験計画を基に、木炭電池を改良するための実験を行うことができる。
 - ・結果を基に考察する。
- 3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 <small>【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】</small>	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習をする。 ・課題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一次電池や二次電池、木炭電池の仕組みについて振り返る。
展開①	20	タキソノミーより：「解決する」の実践	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実験内容を確認し、仮説ごとに実験準備を行う。 ・木炭電池を改良するための仮説に基づいた実験を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で決めた検証する仮説A～Dの実験を班（4人）で1人1つ担当し、仮説ごとに分かれて実験を行う。 ・実験方法や条件制御などについて、しっかり記録をとるよう指示する。 ・班員に実験結果や考察を説明できるよう、「ロイロノート・スクール」で情報を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するために立てた仮説、実験計画を基に、正しく実験を行うことができる。 <p style="text-align: right;">【知・技】</p>
展開②	20	タキソノミーより：「分析する」の実践	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果に基づいて考察を行う。 ・班に戻り、仮説A～Dの結果・考察を整理し、課題に対する結論について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」の共有ノートで仮説A～Dの実験結果を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果に基づいた考察を行うことができる。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを行う。 ・片付けをする。 	

- 4 タキソノミーに対応した評価
 - ・課題を解決するために立てた仮説、実験計画を基に、正しく実験を行うことができる。(解決する)
 - ・実験結果に基づいた考察を行うことができる。(分析する)

理
科

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)				
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する
A_ 事実的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	③一般的な花のつくりを覚え る。		⑤植物の種類により、葉、根の ようすが違うことがわかる。	⑥創造する
	学習目標	記述し覚える		分類する	
	学習者の動詞				
	道具・手立 (ICT含む)				
B_ 概念的知識	学習目標	⑦厚薄植物の特徴がわかる。 ⑧無脊椎動物の特徴がわかる。	②花のつくりを観察する。 ④葉、根のつくりを観察する。	⑥植物の種類により植物を分類 する。 ⑨動物の種類により動物を分類 する。	
	学習者の動詞	特徴を見いだす	結果を共有する	分類する	
	道具・手立 (ICT含む)		ロイノート・スケール	デジタル教科書	
	学習目標		①物をスケッチする手法を学 ぶ。		⑩感評を用いて、動物の分類を 実際に行う。
C_ 手続き的知識	学習者の動詞		共有する		結論付ける
	道具・手立 (ICT含む)		ロイノート・スケール		図鑑アプリ
	学習目標				
	学習者の動詞				
D_ メタ認知的知識	道具・手立 (ICT含む)				
	学習目標				
	学習者の動詞				
	道具・手立 (ICT含む)				

3観点

知識・技能

思考・判断・表現

学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	知識・技能 いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物の共通点や相違点を見いだして、生物を分類するための観点や基準を身に付けている。	思考・判断・表現 いろいろな生物の共通点に関する事象・現象に関連して、科学的に探究しようとしている。	学びに向かう力・人間性等 いろいろな生物の共通点に関する事象・現象に関連して、関わり、異通しをもったり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法 単元テスト、成果物、演技等	定期テスト 実験操作	定期テスト 小テスト 実験レポート	課題の内容 提出物の継続性
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	定期テスト後 実験後	定期テスト後 レポート提出時	単元の最後

理科学習指導案

日 時 令和 4 年 9 月 5 日 (月)
 対 象 1 年 1 組 計 31 名
 授業者 主幹教諭 青柳 敦
 場 所 4 階 第 2 理 科 室

- 1 単元名 「いろいろな生物とその共通点」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・身近な生物の共通点と相違点に着目しながら、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだしたり、生物を分類するための観点や規準を見いだしたりして、表現することができる。

3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 <small>【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】</small>	指導上の留意点	評価規準
導 入	5	タキノミーより：「説明する」の実践	
		<ul style="list-style-type: none"> ・動物の分類を確認する。 ・「デジタル教科書」を使用して、動物の分類の復習をする。 ・本時のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の特徴に応じて、分類することができるようにする。 ・既習事項の動物の分類が、理解できているかを確認、把握する。
展 開	35	タキノミーより：「観察する」の実践	
		<ul style="list-style-type: none"> ・「図鑑アプリ」の使い方を確認する。 ・必要な道具を準備する。 ・配られたチリモンカードを完成させる。 ・「図鑑アプリ」を使って、「ロイロノート・スクール」に配られた、チリモンカードをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察時は、試料を手で触らないように注意を促す。 ・「図鑑アプリ」を使って、動物の名前や種類がわかり、大まかに分類することができるかを確認し、個別に助言していく。
ま と め	10	タキノミーより：「結論づける」の実践	
		<ul style="list-style-type: none"> ・各自の観察結果を「ロイロノート・スクール」で共有する。 ・片付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他人の意見を共有したり、比較したりして、正しい観察結果を導き出せるようにする。 ・片付けは、しっかりと行えるようにする。

4 タキノミーに対応した評価

- ・脊椎動物と無脊椎動物が正しく分類することができる。(説明する)
- ・観察を行い、図鑑アプリで動物を調べることができる。(実験する)
- ・観察結果より、動物の種類がわかり、分類することができる。(結論付ける)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

NELAM
2020年10月作成

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
A_ 事実的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	①読解問題を解く。				
	学習目標	理解する				
	学習者の動詞	ロイノノート・スクール デジタル教科書				
B_ 概念的知識	学習目標		②要約文を作成する。			
	学習者の動詞		要約する			
	道具・手立 (IT含む)		ロイノノート・スクール デジタル教科書			
C_ 手続き的知識	学習目標			④お互いの要約文を分析する。		③要約文を発表する。
	学習者の動詞			分析する		発表する
	道具・手立 (IT含む)			ロイノノート・スクール		ロイノノート・スクール
D_ メタ認知的知識	学習目標				⑥作成した要約文を記事にしてまとめる。	
	学習者の動詞			再検討する	評価する	記事にしてまとめる
	道具・手立 (IT含む)			ロイノノート・スクール デジタル教科書	ロイノノート・スクール	ロイノノート・スクール デジタル教科書

3観点

知識・技能

思考・判断・表現

学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	長所と短所を比較して述べる文章の構成の理解を基に、エネルギー問題について書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。	自分のできることや感想などを述べることができるように、様々なエネルギー問題について書かれた説明文の概要を捉えている。	自分のできることや感想などを述べることができるように、様々なエネルギー問題について書かれた説明文の概要を捉えている。	自分のできることや感想などを述べることができるように、様々なエネルギー問題について書かれた説明文の概要を捉えている。
評価方法 単元テスト、成果物、実演等	ロイノノート・発表	ロイノノート・発表	ロイノノート・発表	ロイノノート・発表
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	毎授業時 最後の授業日	毎授業時 最後の授業日	毎授業時 最後の授業日	毎授業時 最後の授業日

英語科学習指導案

日 時 令和3年11月18日(木)
 対 象 3年1・2組 計66名
 授業者 主任教諭 久保田 比佐美
 教 諭 河内 勇人
 教 諭 工藤 幹也
 場 所 5階英語教室 Intermediate Class
 3階英語教室 Upgrade Class
 4階英語教室 Fundamental Class

- 1 単元名 「Let's Read 2 Power Your Future」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・P106～108の内容を理解し、読解問題に解答する。
 - ・それぞれの段落の要約文を作成する。
- 3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・本時のめあてのスライドを確認する。 ・会話シートを使用し、会話練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてをしっかりと確認する。 ・会話が続くように、机間指導を行う。
展開①	20	タキノミーより：「理解する」の実践	
	<ul style="list-style-type: none"> ・P106～108の読解問題に取り組む。 ・「ロイロノート・スクール」・「デジタル教科書」を活用し、読解問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習では、「デジタル教科書」を使用し、段落ごとに拡大してよい。 ・解答は事前に配布された「ロイロノート・スクール」のスライドで行う。段落ごとに問題を設定しておく。 ・単語や文法事項などの意味が分からない場合は、インターネットなどを活用して調べても良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」・デジタル教科書を使用し、読解問題に解答できている。 <p style="text-align: right;">【知・技】</p>
展開②	20	タキノミーより：「応用する」の実践	
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループになり、各ページの要約文を作成する。 ・「ロイロノート・スクール」・「デジタル教科書」を活用し、要約文の作成に取り組む。(Upgrade Class) ・「ロイロノート・スクール」・「デジタル教科書」を活用し、エネルギー資源の良い点と悪い点をまとめる。(Intermediate Class) (Fundamental Class) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ページの段落をそれぞれ要約して、この単元の要約文を作成する。 ・生徒は段落ごとに役割分担をし、担当の段落を決定する。その後、生徒間通信をし、ページごとに要約を完成させる。(Upgrade Class) ・各ページの段落の内容をグループで話し合い、エネルギー資源の利点や欠点について話し合い活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」・デジタル教科書を使用し、正確な要約文を作ろうとしている。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 ・「ロイロノート・スクール」に送られた要約文の模範解答と自分たちの解答を見比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要約文の模範解答を配信し、自分たちのものと見比べる。

- 4 タキノミーに対応した評価
 - ・「ロイロノート・スクール」、「デジタル教科書」を使用し、読解問題に解答できる。(理解する)
 - ・「ロイロノート・スクール」、「デジタル教科書」を使用し、正確な要約文を作ろうとしている。(応用する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
A_ 事実的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立て					
B_ 概念的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立 (ICT含む)	⑥読解問題に答える。 本文の読解問題を解く	①要約文を作成する。 本文を要約する	②お互いの要約文を分析する。 ロイノート・スクール デジタル教科書		
C_ 手続き的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立 (ICT含む)			分析する ロイノート・スクール		発表する ロイノート・スクール
D_ メタ認知的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立 (ICT含む)					記事にしてまとめる ロイノート・スクール デジタル教科書

3観点			知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
評価規準 単元を通して育むチカラ	社会的な話題について、まとものある文章の要点を捉えることができる。	社会的な話題について、考えたことや感じたこと、その理由などをまとめたり、述べ合ったりすることができる。			社会的な話題について詳しく調べ、表現しようとしている。
評価方法 単元テスト、成果物、演技等	ロイノート・スクール 発表 単元テスト	ロイノート・スクール 発表	ロイノート・スクール 発表	ロイノート・スクール 発表	ロイノート・スクール 発表
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	毎授業時・単元テスト	毎授業時・提出物 (新聞)	毎授業時	毎授業時	毎授業時

英語科学習指導案

日時 令和3年12月20日(月)
 対象 3年1・2組 計66名
 授業者 主任教諭 久保田 比佐美
 教諭 河内 勇人
 教諭 工藤 幹也
 場所 5階英語教室 Intermediate Class
 3階英語教室 Upgrade Class
 4階英語教室 Fundamental Class

1 単元名 「Optional Reading 1 Borderless Friendship」
 「Optional Reading 2 To Our Future Generations」

2 本時の目標 (ねらい)
 ・P116・P117の要約文を作成する。
 ・作成した要約文を比較検討し、よりよい要約文を作り出す。

3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
5	・あいさつ ・本時のめあて・流れのスライドを確認する。 ・会話シートを使用し、会話練習をする。	・本時のめあてをしっかりと確認する。 ・会話がなるべく続くように、机間指導を行う。	
20	タキノミーより：「応用する」の実践		
20	・グループになり、各ページの要約文を作成する。 ・「 ロイロノート・スクール 」、「 デジタル教科書 」を活用し、要約文の作成に取り組む。	・各ページの段落をそれぞれ要約して、この単元の要約文を作成する。 ・生徒は役割分担をし、担当部分を決定する。その後、生徒間通信をし、ページごとに要約を完成させる。 ・習熟度が低い生徒が多くいるグループには、事前に日本語訳を配布する。	・「ロイロノート・スクール」、「デジタル教科書」を使用し、正確な要約文を作ろうとしている。【思・判・表】
20	タキノミーより：「比較する」の実践		
20	・自分たちが作成した要約文を他の要約文と比較する。 ・「 ロイロノート・スクール 」の提出箱に提出された要約文をそれぞれのグループで比較し、その結果を発表する。	・提出された要約文を比較し、取り入れたい表現を「 ロイロノート・スクール 」のカードに記入し提出させる。 ・話し合い活動を行い、自分たちの要約文に取り入れたい表現や部分をそれぞれのグループから発表させる。	・「ロイロノート・スクール」、「デジタル教科書」を使用し、要約文をよりよいものにしようとしている。【主】
5	・本時の振り返りをする。 ・自分たちの要約文を再検討し、「 ロイロノート・スクール 」に再提出する。	・要約文を再提出させる。	

4 タキノミーに対応した評価

- ・「ロイロノート・スクール」、「デジタル教科書」を使用し、正確な要約文を作ろうとしている。(応用する)
- ・「ロイロノート・スクール」、「デジタル教科書」を使用し、要約文をよりよいものにしようとしている。(比較する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)				
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する
A_ 事実的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	②不定詞を含む文法の意味や使い方を理解する。			
	学習目標	視覚化する 関連付ける 翻訳する 言い換える			
	学習者の動詞				
	道具・手立 (ICT含む)	教科書 ワークシート			
B_ 概念的知識	学習目標	①Key List (単語)についての概要を理解する。	④プレゼンテーション原稿、スライドを作成する。		
	学習者の動詞	視覚化する 記述する	発見する 要約する 音読する	収集する 準備する	
	道具・手立 (ICT含む)	教科書	教科書 ワークシート	教科書	
	学習目標		⑤自分で調べ、作成した内容をプレゼンテーションする。		⑦自分の意見や考えを加えた記事を作成する。
C_ 手続的知識	学習者の動詞		プレゼンテーションする	査定する 批評する コメントする	記事を書く
	道具・手立 (ICT含む)		教科書	ワークシート	教科書 ワークシート
	学習目標			⑥自分のプレゼンテーションを振り返り、改善点を分析できる。	
	学習者の動詞			対象と照らし合わせる	
D_ メタ認知的知識	道具・手立 (ICT含む)			ワークシート	
	学習目標				
	学習者の動詞				
	道具・手立 (ICT含む)				

3観点

知識・技能

思考・判断・表現

学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	単元についての文法、単語、内容に関する知識とそれらを用いた英語の表現技能を身に付けることができる。	単元についての概要を捉え、絶滅が危惧される動物の現状、それに関する自分の考えをもち、英語で表現することができる。	単元の文章概要の把握や、それに関する自分の考えを表現するために、積極的な姿勢をもって学習に取り組むことができる。
評価方法 単元テスト、成果物、演習等	筆記テスト	パフォーマンステスト、成果物	取り組み状況、成果物
評価の機会 単元の途中、最後、等 評価のタイミング	途中、定期考査	⑤、最後	全体

英語科学習指導案

日 時 令和 4 年 9 月 5 日 (月)
 対 象 3 年 1 組 計 28 名
 授業者 教 諭 河 内 勇 人
 教 諭 工 藤 幹 也
 場 所 3 階 3 年 1 組 教 室 B ク ラ ス
 3 階 英 語 室 A ク ラ ス

1 単元名 「Unit 6 Animals on the Red List」

2 本時の目標 (ねらい)

- ・本文の内容を理解し、それに対する問いに答える。

3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 15	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動 (聞きトレ 64、読みトレ 50、Tracking Sheet) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Aクラスは各個人のペースで進めさせ、読みトレは音声入力を行い、訂正し、提出させる。Bクラスは教員のあとにリピートする。WPM の計測は共通。 	
展開 30	タキノミーより：「理解する」の実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文概要、単語の意味と読み方を一致させる。 ・ ストーリースライドを見ながら本文内容を捉え、音読の練習をする。 ・ 英語を声に出して読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Bクラスは、フラッシュカードを使用した単語の練習を行い、ストーリースライドを使用する。Aクラスは行わない。 ・ Aクラスは、生徒用「デジタル教科書」を使用し、音声の確認した後、教員の前で確認する。Bクラスは教員とリピート練習。 	
	タキノミーより：「要約する」の実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ さらに細かく本文内容を捉える。 ・ 本文内容に沿った展開になるように要約する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Aクラスは、ストーリースライドを元にペアで要約文を作成する。次回の授業で発表する。 ・ Bクラスは教科書Round 1～3に取り組み、答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の要約、確認をするために自分で調べ、取り組んでいる。 【主】
まとめ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の問い「Why are the gorillas in the Congo endangered?」に答え、内容理解を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カードに解答し、提出させる。時間内に終わらない場合は家庭学習とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問いに正対した解答が書ける。 【思・判・表】

4 タキノミーに対応した評価

- ・ 本文の内容を理解し、それに対する問いに答えることができる。(理解する)
- ・ 本文の内容を捉え、内容に沿った要約をできるように取り組んでいる。(要約する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)



知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	①-1 記号に関する基礎的な知識を学ぶ。(符号、書き方、ルール等)	①-2 コードネームの意味について理解する。				
A_事実的知識	覚える	覚える 演奏する				
学習目標	ロイロノート・スクール	プリント GarageBand				
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標		②-1 私たちの周りで「音」で様々な予想をしていることに気付く。(学校のチャイム、電卓の音等)	①-3 指定されたコードの動きを利用して、4小節の曲を創作する。			
B_概念的知識	鑑賞する	鑑賞する	ルールに沿って創作する			
学習者の動詞		YouTube (動画)				
道具・手立 (ICT含む)			GarageBand ロイロノート・スクール プリント			
学習目標			③自分ズイメージした曲案を楽団に委ね、自分の作品作りの参考にさせる。また、自分の作品を楽団に委ね、さらにイメージを膨らませて創作する。			
C_手続的知識			イメージをもって創作する	発表する 鑑賞する 比較する	さらにイメージを膨らませて創作する	
学習者の動詞				MuseScore GarageBand ロイロノート・スクール		GarageBand
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標			②-2 手紙に気づくための音楽はどのようなものかよいかを考える。(コンセプトシート)		⑥自分の作品を発表するとともに、⑦校内放送でチャイムとして放送する他の作品を聞き合い、今後の作品作りの参考にさせる。	
D_メタ認知的知識			記述する 表現する	発表をする 批評する	鑑賞する	
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)			ロイロノート・スクール		MuseScore GarageBand ロイロノート・スクール	GarageBand 放送機材

3観点

知識・技能 思考・判断・表現 学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	創作活動を行う上での基礎的な音楽理論を理解している。	創作活動に主体的に取り組もうとしている。次回の作品作りに生かそうとしている。
評価方法 単元テスト、成果物、演奏等	創作ノート MuseScore・GarageBandの作品	観察 ふりかえりシート 鑑賞シート
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	授業開始直後の創作、定期テスト	単元の途中、単元の最後

音楽科学習指導案

日 時 令和3年11月18日(木)
 対 象 2年1組 28名
 授業者 主任教諭 笹本 順子
 場 所 2階 パソコン室

- 1 単元名 「まとまりのある旋律を作曲しよう～オリジナルチャイム作り～」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・コード進行、作品のイメージに基づいて曲を作曲し、中間発表を行う。
 - ・仲間の作品を聞き、最終発表に向けてさらにイメージを膨らませ創作する。
- 3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 <small>【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】</small>	指導上の留意点	評価規準
導入 10	<ul style="list-style-type: none"> ・創作ノートに4小節の曲を創作する。 ・終了後「GarageBand」に入力する。 ・本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品は「ロイロノート・スクール」で提出させる。 ・「GarageBand」作品も連結して提出する。 ・「iMovie」で本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記譜、コードのルールに沿って創作している。 <p style="text-align: right;">【主】</p>
展開① 25	タキソノミーより：「鑑賞する 批評する」の実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ・各自、作品のコンセプト、「MuseScore」作品を発表する。 ・参考にしたい作品を選び、「ロイロノート・スクール」に記入し、提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PCは画面共有し、一人ずつ鑑賞する。 ・カードを「ロイロノート・スクール」で配付する。 ・様々な作品を聴きながら、よかったところ、参考にしたいところなどを記入する。回答共有し意見を共有させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「MuseScore」作品が出来上がっている。【主】 【思・判・表】 ・参考にしたいポイントなど、「ロイロノート・スクール」にまとめている。【主】
展開② 10	タキソノミーより：「創作する」の実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「GarageBand」作品を鑑賞する。 ・さらに創作へのイメージを膨らませ、「GarageBand」作品に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の作品の中から選び、鑑賞する。 ・楽器の組み合わせ、リズムの工夫など参考にさせる。 ・自分の「GarageBand」作品にさらに工夫を加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらにイメージを膨らませ、作品に工夫を加えようとしている。【思】
まとめ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」の「テキスト」に本時の振り返りを記入し、提出箱に提出させる。 	

- 4 タキソノミーに対応した評価
 - ・仲間の作品を鑑賞し、よいと思ったこと、参考にしたいことなどを記述することができる。
(批評する)
 - ・参考にしたい点を踏まえ、自分の作品をさらに工夫し創作することができる。(創作する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	①-1 記憶に関する基礎的な知識 提供できる。(住所、書き方、ル ールなど)	①-2 コードネームの構造につい て理解する。様々なリズムを理解す る。				
A_ 事実的知識	記憶する	理解する 演奏する				
学習目標		デジタル教材「楽譜がよめるようになる」 GarageBand				
道具・手立 (ICT含む)	プリント ロイロノート・スクール					
学習目標		②-1 多くの楽譜に目をつけ、楽譜の①-3 指定されたコードの動きを もつかやすことについて気づく。				
B_ 概念的知識	鑑賞する	鑑賞する	創作する			
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)	YouTube		GarageBand ロイロノート・スクール			
学習目標			②-2 様々な曲の風合いをロイロノ ットで聴く。(歌詞もいれる)			④-4 曲調の作り手を知る。さらにイ メージを膨らませる。
C_ 手続き的知識			創作する	発表する 批評する 鑑賞する		創作する
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)			MuseScore GarageBand			GarageBand
学習目標			③ 様々な楽器を使って自分 のイメージに近づけ、作曲する。			④-5 MuseScore、アレンジソフト などを使って作曲する。
D_ メタ認知的知識			創作する			創作する
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)			GarageBand			Movie GarageBand

3観点

知識・技能 思考・判断・表現 学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	創作活動を行う上での基礎的な音楽理論を理解して いる。	コードの動きに沿って、イメージをもって創作活動 をしている。	創作活動に主体的に取り組もうとしている。
評価方法 単元テスト、成果物、演奏等	創作ノート MuseScore GarageBandの作品	CMソング 動画 発表原稿	観察 ふりかえりシート 鑑賞シート
評価の機会 単元の途中、最後、等 評価のタイミング	定期テスト 創作ノート作品	単元の途中、単元の最後	単元の途中 単元の最後

音楽科学習指導案

日 時 令和4年7月7日(木)
 対 象 2年2組 計22名
 授業者 主任教諭 笹本 順子
 場 所 5階 第1音楽室

1 単元名 「和音の動きを生かして旋律を作ろう～錦中 CM 作り～」

2 本時の目標 (ねらい)

- ・コード進行を活かした4小節の曲 (CM ソング) を作曲し、発表をする。
- ・コードネームを理解し、イメージをもって校歌をアレンジ (オリジナル校歌) し、発表をする。
- ・作品を映像に取り入れ、錦糸中 CM を作る。

3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 5	<ul style="list-style-type: none"> ・「GaregeBand」を使用し、リズム練習を行う。 ・本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「デジタル教材」「楽譜がよめるようになる」を使用し、楽譜に注目し、正しくリズムを演奏する。(3曲程度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜に集中し、積極的に取り組んでいる。【主】
展開① 20	タキノミーより：「鑑賞する 批評する」の実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ・班に分かれ、作品のコンセプトについて発表し、作品を鑑賞する。 <①CM ソング②校歌> ・参考にしたい点など、「ロイロノート・スクール」に記入し、意見を交換し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「GarageBand」を使用し、一人ずつ発表する。 ・班員の作品を聴き、よかったところ、参考にしたいところなどを記入する。 ・生徒間通信を解除し、意見を共有させる。 ・班ごとに代表作品を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「MuseScore」作品と「GarageBand」作品が出来上がっている。【思・判・表】 ・参考にしたいポイントなど、「ロイロノート・スクール」にまとめている。【主】
展開② 20	タキノミーより：「創造する」の実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「iMovie」を使い、編集作業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CMソング、オリジナル校歌を入れる。 ・30秒程度の作品とする。 ・CMソングは作品の最初、もしくは最後に入れる。 	
まとめ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来上がった作品は、「ロイロノート・スクール」に提出する。 	

4 タキノミーに対応した評価

- ・自分のイメージにそった作品を作りあげることができる。(創造する)
- ・仲間の作品を鑑賞し、よいと思ったこと、参考にしたいと思ったことなどを記述することができる。(批評する)
- ・音楽作品を取り入れた動画編集を行うことができる。(創造する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)



知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	②仏像の鑑賞を通して、特徴や、種類を学ぶ。			③仏像や人物表現の鑑賞を通して、作者の表現の意図を考へ、見方や感じ方を深める。		
A_ 事実的知識	学習目標	名前を付ける 視覚化する		分類、比較する		
	学習者の動詞	ロイノノート・スクロール 電子黒板		ロイノノート・スクロール 電子黒板		
B_ 概念的知識	道具・手立 (ICT含む)		④授業の自分の姿をテーマとし、主題を生み出す。骨格を認識しながら土台を制作し、作品の大まかなイメージを捉える。			⑤骨格から、粘土などの素材を使って、肉付けを行う。
	学習目標		考えた方路を実行する 実験する			表現する
C_ 手続きの知識	学習者の動詞		針金 ロイノノート・スクロール			粘土 針金
	道具・手立 (ICT含む)					⑦相互鑑賞したことを基に、制作した途中段階の作品を材料の特性を見ながら制作を行う。
D_ メタ認知的知識	学習目標					組み合わせる 表現する
	学習者の動詞		比較する		取捨選択する	粘土 針金
	道具・手立 (ICT含む)		粘土 針金		ロイノノート・スクロール	⑧自分の姿を俯瞰して、作品制作を振り返り、制作のコンセプトをまとめる。
	学習目標					論述する
学習者の動詞						ロイノノート・スクロール

3観点

知識・技能

思考・判断・表現

学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	人物表現の構想などから制作の順序などを総合的に考えながら見通しを持って表す。	「自分」をテーマとして動線を制作する中での動きを深く見つめ、取ったことなどをもとに主題を生み出し、心算の処理を考へ、創造的な構成を工夫し、心算かに表現する構想を練る。	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に自分の特徴や表現方法を基に構想を練り、意図に基づき自分の表現方法を発表して創造的に彫刻で表したりする表現の学習活動に積極的に取り組む。
評価方法 単元テスト、成果物、演技等	制作途中の作品 ワークシート	制作途中の作品 ワークシート	振り返りワークシート
評価の機会 単元の途中、最後、等 評価のタイミング	単元の途中	単元の終了時	単元の途中

美術科学習指導案

日 時 令和3年7月16日(金)
 対 象 3年1組 計 33名
 授業者 教諭 濱 夏子
 場 所 3階 第1美術室

- 1 単元名 「もう一人の自分 私との対話」 第4回
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・構想した「自分」について、骨格を参考にしながら、芯材に粘土を粗付けして作品の大まかなイメージを捉える。
- 3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 【学習活動はタキノミーで位置づけた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・前回「ロイロノート・スクール」に提出した進捗状況を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマが決まっていない生徒は、マッピングや、アイデアスケッチをして構想を深め、「ロイロノート・スクール」の返信で指摘されたことに取り組みさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」で今日の取組を確認して取り組む準備をしている。 【主】
展開①	15	タキノミーより：「表現する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の姿の骨格や、動きを確認しながら芯材を加工する。 ・前回の取組を振り返り、多様な視点から骨格を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机の上には、iPad、芯材、その他の用具は足元や机の中にしまうよう指示する。 ・構想に基づいて、人体の骨格を意識しながら針金を加工する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机の上に必要な用具を準備し、芯材を加工して制作を進めている。 【知・技】
展開②	20	<ul style="list-style-type: none"> ・作品のアイデアスケッチや資料を参考に、材料を芯材に粗付けする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粗付けでは新聞紙、アルミホイルを使用して肉感、動きを出すよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より豊かな表現になるように工夫している。 【思・判・表】
まとめ	10	<ul style="list-style-type: none"> ・作品途中段階を写真撮影し、「ロイロノート・スクール」に次の段階でどうなるのか想像しながらアイデアスケッチを行う。 ・今日の取組を「ロイロノート・スクール」に提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出箱に、次回やることをまとめ、制作中の写真1枚(描き込み済み)を添付することを指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の取組を振り返り、次回に生かそうとしている。 【主】

- 4 タキノミーに対応した評価
 - ・テーマ設定に基付いた立体制作において、多様な視点から自分の作品を観察し、より豊かな表現をしようと粗付けを行っている。(表現する)

美術

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

NEJAM
2020年度評価

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	②意味を学び、適切な方法の仕組みを説明する。	③紙面の構成による伝わり方の変化を説明する。 定規、鉛筆、消しゴム、色鉛筆の使い方、考え方を示す。				
A_事象的知識	認識する 記憶する	比較する 発見する				
道具・手立 (ICT含む)	板書、クロッキー帳 鉛筆、定規	電子黒板				⑤「光のある場所」をテーマに、自分にとって主題にあった場所を下の書きスケッチする。
学習目標						
学習者の動詞				マインドマップ		表現する
B_概念的知識						
道具・手立 (ICT含む)				イラストボード 定規 取組カード		イラストボード ロイノート・スクール 取組カード
学習目標						⑦自分の体験を振り返り、材料の組み合わせや構成の工夫について題材等を検討する。
学習者の動詞			行動する			実験する 推敲する
C_手続き的知識						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
D_メタ認知的知識						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						
学習目標						
学習者の動詞						
道具・手立 (ICT含む)						

美術科学習指導案

日 時 令和4年7月7日(木)
 対 象 3年2組 計 28名
 授業者 教諭 濱 夏子
 場 所 3階 3年2組教室

1 題材名 「光のあたる場所」～写真と絵画を比較し、表現を振り返る～

2 本時の目標 (ねらい)

- ・鑑賞の活動を通して、造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。
- ・校内スケッチをしている今の自分の作品を振り返り、材料の組み合わせや、創造的な構成の工夫について、豊かに構想を練る。
- ・材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもつ。

3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
5	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が撮影した写真と、制作画像をワークシートに貼っておく。 ・今日のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」に段階的に表現の変化が見えるワークシートを配布する。 ・電子黒板で今日のめあてを表示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」で今日の取組を確認し、準備している。 【主】
10	タキソノミーより：「比較する」の実践		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでゴッホの「夜のカフェテラス」の風景写真と作品を比較して気付いたことをふせんに貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「夜のカフェテラス」の作品と、風景写真を共有する。作品は拡大印刷したものを用意する。 ・グループにA3サイズのワークシートとふせん4色を用意して共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術作品を鑑賞し、自分なりの作品に対する見方・考え方を伝え合う。 【思・判・表】
20	タキソノミーより：「鑑賞する」の実践		
20	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで気付いたことをまとめてiPadの「カメラ」でワークシートを撮影し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班長がワークシートを撮影して提出させる。 ・発表は、色、構図、作者のねらいをどのように話し合ったか伝える指示を出す。 ・発表者は班長に限らず、鑑賞の言語活動として発表できる生徒を分散してもよいとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主題などを基に、想像力を働かせ、表現の構想を練る。 【思・判・表】
10	タキソノミーより：「分析する」の実践		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品を振り返り、表現したいことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に配布した「ロイロノート・スクール」のワークシートに、自分の作品のねらいや画材などをまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主題などを基に想像力を働かせ表現の構想を練る。 【思・判・表】
5	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年で学んだ内容を確認し、表現方法の広がり伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3年上の教科書を確認して、制作に向けての見通しをもたせる。 	

4 タキソノミーに対応した評価

- ・写真と作品で比較して、色と形の違いに気付いて意見を共有できる。(比較する)
- ・作品の鑑賞を通して、作者の表現の意図と創造的な工夫について発表できる。(鑑賞する)
- ・自分の作品を振り返り、表現方法の特性から自分が表現したい内容を総合的に考えて見通しをもつことができる。(分析する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)



知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)					
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
A_事実的知識	学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	①ミニモニスの特性や技術を知 る。				
	学習目標					
	学習者の動詞	記憶する				
	道具・手立 (ICT含む)	学習カード 中学体育実技 ラケット ボール				
B_概念的知識	学習目標	②フォアハンドドライブの動作とボ イントを理解する。 ⑤バックドライブのポイントと動作 を理解する。				
	学習者の動詞	練習をする				
	道具・手立 (ICT含む)	学習カード 動画				
C_手続き的知識	学習目標		③フォアハンドを使って長くラリー を続ける。 ⑦バックドライブの自己の動作を撮影 し、分析する。 ⑥サーブレットゲーム。	④実技テストを自己評価する。		
	学習者の動詞	ねらった場所へ 打つ	撮影する 分析する	評価する		
	道具・手立 (ICT含む)	サークル	プリント、タブレット	プリント、タブレット		
	学習目標	⑧ゲームでラリーを続ける。	⑨簡単にゲームでの原理と課題を異つ ける。	⑩リーグ戦を運営し、ゲームでの チーム評価と自己評価をする。	⑪ゲームに勝つための作戦を立て、 練習や作戦を実行する。	
D_メタ認知的知識	学習者の動詞	プレーする	評価する	評価する	作戦を実行する	
	道具・手立 (ICT含む)		プリント 作戦ボード	プリント	プリント	

3観点

知識・技能

思考・判断・表現

学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	ねらった場所にフォアドライブでサーブを打つこ とができる。 ミニモニスの特性と技術の名称を理解できる。	フォアドライブやバックドライブを駆使して、仲間とラリー を長く続けられる。 練習やゲームを通して、自己の課題を発見し、課題解決のた めにとどのよう工夫するか、他人に伝えることができる。	ゲームや練習積極的に取り組み、勝敗を競う楽しみ を味わうことができる。
評価方法 単元テスト、成果物、実演等	実技テスト 単元テスト	実技テスト 学習カードの記述	生徒観察 提出物の内容
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	実技テスト(単元途中) 単元テスト(単元の最後)	実技テスト(単元途中) 学習カードの記述(単元途中)	生徒観察(毎時間) 提出物の内容(毎時間の始め)

保健体育科学習指導案

日 時 令和3年11月18日(木)
 対 象 2年2組 計 28名
 授業者 主任教諭 福島 順子
 場 所 体 育 館

1 単元名 球技 ネット型「ミニテニス」

2 本時の目標 (ねらい)

- ・ 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて工夫して練習に取り組むことができる。
- ・ 他者の課題を的確に捉え、アドバイスをすることができる。

3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整列、挨拶 ・ 準備体操、補強運動 <p>・ 本時のねらいの達成に向けて、今日の授業の流れと内容を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康状態、安全の確認を行う。 ・ 体育係、キャプテンを中心に行う。 ・ ケガの無いように入念に行う。(一斉学習) <p>①基礎的な技(フォアドライブ、バックドライブ)を確実に身に付ける。 ②技のポイントと自己の課題を整理し、友達と積極的にアドバイスをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のねらいを明確にし、学習の流れをイメージできるようにする。 	
展開① 15	タキソノミーより：「応用する」の実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ フォアハンドドライブで長くラリーを続ける。 <p><練習Ⅰ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対角線上の相手とフォアハンドサーブからのラリーを長く続ける。(2分間) ・ 仲間にアドバイスする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時のフォアハンドドライブの分析を実践で試させる。 ・ iPadによる撮影、学習カードなどを利用しての課題の確認をし、自己の課題を見付けやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードに記入した自己の課題を改善しようと努力している。 <p style="text-align: right;">【主】</p>
展開② 15	タキソノミーより：「分析する」の実践		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ バックドライブの自己の動作を撮影し、分析する。 <p><練習Ⅱ></p> <p>①チームメイトに球出しをしてもらい、5球ずつバックドライブで返球する。 ②①の繰り返し、動画の撮影を「カメラ」のスローで行う。 ③自分の動画の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボールを捉えるからだの位置、インパクト、フォロースルーを意識させる。 ・ 仲間と協力し、インパクト時のラケットの面の向き、ボールの軌跡が入るように「カメラ」で動画撮影させる。(スロー) ・ 動画で自分の動きを確認させる。動画を「ロイロノート・スクール」で提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間と協力し、自己の課題や他者の課題を見付け、課題解決のために他者に伝えることができる。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>
まとめ 10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 片付け、集合 ・ 本時のまとめ、振り返り ・ グループで動画を見ながら、バックドライブのアドバイスをを行い、学習カードに記入する。 ・ 次時の連絡・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間からのアドバイスを必ずメモさせる。 ・ 次時に意欲がもてるようにする。 ・ 体調確認を行う。 	

4 タキソノミーに対応した評価

- ・ 前時の分析を利用して、ねらった場所へフォアハンドドライブを打つことができる(応用する)
- ・ グループの仲間と協力し、自己の課題、他者の課題を的確に捉え、アドバイスすることができる。(分析、評価する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)				
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	①ミニニシスの特性や技術を知 る。	②フォアハンドドライブの動作とホ ント多相性する ④、⑤の多相性 を理解する。			
A_事実的知識	学習目標 学習者の動詞	練習する			
	道具・手立 (IT含む)	学習カード ラケット カメラ			
	学習目標		③フォアハンドを使って長くラリー を続ける。		
B_概念的知識	学習者の動詞		ラリーを続ける		
	道具・手立 (IT含む)				
	学習目標			⑤ターゲットゲーム	
C_手続的知識	学習者の動詞		フォアハンドを 打つ	撮影する 分析する	評価する
	道具・手立 (IT含む)		マーカー サークル	プリント カメラ	プリント カメラ
	学習目標		⑧ゲームでラリーを続ける。	⑩簡単なゲームでの成績と課題を更付 ける ⑪ゲームに勝つための作戦を立て 練習やゲームで作戦を実行する。	⑨ゲームでラリーを続ける。 ⑩簡単なゲームでの成績と課題を更付 ける ⑪ゲームに勝つための作戦を立て 練習やゲームで作戦を実行する。
D_メタ認知的知識	学習者の動詞		プレーする	分析する 実践する	評価する
	道具・手立 (IT含む)			プリント 作戦ボード	プリント

3観点

知識・技能

思考・判断・表現

学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	ねらった場所にフォアドライブでサーブを打つこ とができる。 ミニニシスの特性と技術の名称を理解できる。	フォアドライブやバックドライブを駆使して、仲間とラリーを長 く続けられる。 練習やゲームを通して、自己の課題を発見し、課題解決のために どのように工夫するか、他者に伝えることができる。	ゲームやラリーを長 く続けられる。 練習やゲームを通して、自己の課題を発見し、課題解決のために どのように工夫するか、他者に伝えることができる。	ゲームや練習積極的に取り組み、勝敗を競う楽しみ を味わうことができる。
評価方法 単元テスト、成果物、実演等	実技テスト 単元テスト	実技テスト 学習カードの記述	生徒観察 提出物の内容	
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	実技テスト(単元途中) 単元テスト(単元の最後)	実技テスト(単元途中) 学習カードの記述(単元途中)	生徒観察(毎時間) 提出物の内容	生徒観察(毎時間の始め)

保健体育科学習指導案

日 時 令和 3 年 12 月 20 日 (月)
 対 象 1 年 1 組 計 22 名
 授業者 主任教諭 福 島 順 子
 場 所 体 育 館

- 1 単元名 球技ネット型「ミニテニス」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・仲間と協力して、リーグ戦を運営し、技術的な課題やゲームの作戦を立てることができるようにする。
 - ・ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができるようにする。

3 本日の展開

分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 15	<ul style="list-style-type: none"> ・整列、挨拶 ・準備体操 ・本時のねらいの達成に向けて、今日の授業の流れと内容を把握する。 ・体慣らし (球打ち) 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態、安全の確認を行う。 ・体育係、キャプテンを中心にケガのないように入念に行う。 ・本時のねらいを明確にし、学習の流れをイメージできるようにする。 ・チームごとにドライブで球を打ち、ダッシュで拾う。 	
展開① 20	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦を行う 1セット (5分) × 3 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力し、作戦を実践しながら、リーグ戦を運営させる。 ・ゲームを「カメラ」で動画撮影する。(定位置より) 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで立てた作戦を実行するために努力している。 【主】
タキソノミーより：「評価する」の実践			
	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を参考に、ゲームでの自己評価・チーム評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャプテンを中心に、動画を確認しながら、球の軌跡、サービスの有効性など確認し、作戦が実践できたか評価させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間に対して、技術的な課題や作戦を伝えることができる。
展開② 10	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦Xシートを使って、チームの良い点・悪い点を分析し、作戦を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで話し合い、自己のチームの特徴を踏まえて作戦を立てさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間に対して、技術的な課題や作戦を伝えることができる。 【思・判・表】
タキソノミーより：「分析する」の実践			
まとめ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・片付け、集合 ・本時のまとめ、振り返り (キャプテンから、本時の作戦が実践できたか良かった点悪かった点を発表) ・次時の連絡、挨拶 		

- 4 タキソノミーに対応した評価
 - ・リーグ戦の動画を見て、事前に立てた作戦が実行できたか評価する。(評価する)
 - ・評価を基にチームの課題を分析し、次回の対戦に向けて作戦を立てることができる。(分析する)

保健体育科学習指導案

日 時 令和 4 年 9 月 5 日 (月)
 対 象 3 年 2 組 計 2 8 名
 授業者 主任教諭 堀江 理枝
 場 所 3 階 3 年 2 組 教 室

- 1 単元名 「健康と環境」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・ゴミの処理について関心をもつ。
 - ・ゴミ処理の問題について理解する。
 - ・ゴミを減量するための取組について考える。
- 3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をつかむ。 ・1日1人あたり出すゴミの量を知る。続いて年間量・ゴミ処理について理解する。 ・本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめはクイズ形式で興味をもたせる。次に教科書で確認させる。 ・ワークシートP6に記入。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心をもって取り組んでいる。 <p style="text-align: right;">【主】</p>
展開①	15	タキノミーより：「分析する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・班に分かれて資源物とゴミの区分について墨田区 HP で調べる。 ① 資源物→古紙、ビンと缶、ペットボトル、食品トレー。 ② 燃やすゴミ ③ 燃やさないゴミの3種類に分類し「ロイロノート・スクール」に記録し、提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「Safari」で墨田区のホームページから「くらし」→「資源物・ごみ・リサイクル」→「家庭から発生する資源物とごみ」のページを開き、書き出していく。 ・班で調べる人、書き出す人と別れて「ロイロノート・スクール」に作成する。 ・予め「ロイロノート・スクール」の提出シートを作成しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を責任もって行う。分別方法を理解する。 <p style="text-align: right;">【知・技】</p>
展開②	10	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで自分がゴミとして出していたものが資源物にならないか考え、口頭で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源物が増えればゴミを減らすことができることに気付かせる。 	
展開③	15	タキノミーより：「応用する・批評する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・自分ができる3Rの取組をワークシート16-5に記入する。 ・ワークシート16-5を撮影し、「ロイロノート・スクール」で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」の生徒間共有をオンにし、意見を聞き参考にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を主張できる。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・循環型社会にするために、みんなのできることを話し合い、本時を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に発言できるように促す。 	

- 4 タキノミーに対応した評価
 - ・今まで捨てていたゴミは本当にゴミなのか、資源物なのか考え直すことができる。(考案する)
 - ・仲間の考えや取組を参考に、自分の考えを見直すことができる。(批評する)
 - ・循環型社会を作るために自分たちにできることを話し合い、考えることができる。(創造する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	認知過程次元 (学びの深さ)					
		①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
A_ 事実的知識	学習目標 ①本文の明瞭を聞く						
	学習目標 ②「赤ん坊や生きているのに裏切りたい人々の路上死を助けてはならない」という問いに対して「考えをまとめる、共有する」	朗読を聞く	記入する 共有する				
	学習者の動詞 道具・手立 (ICT含む)	まなぶビューア	ロイノノート・スケール				
B_ 概念的知識	学習目標						
	学習者の動詞				考えを記入する		
	道具・手立 (ICT含む)				ロイノノート・スケール		
C_ 手続き的知識	学習目標						
	学習者の動詞						
	道具・手立 (ICT含む)						
D_ メタ認知的知識	学習目標						
	学習者の動詞					記入する	
	道具・手立 (ICT含む)					ロイノノート・スケール	

3観点

知識・技能 思考・判断・表現 学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	「マザー・テレサは、どうしてこれほど真剣に看護を助けたらいいのか」という問いに対して「考えをまとめる、共有する」	「赤ん坊や生きているのに裏切りたい人々の路上死を助けてはならない」という問いに対して「考えをまとめる、共有する」	「マザー・テレサは、どうしてこれほど真剣に看護を助けたらいいのか」という問いに対して「考えをまとめる、共有する」	④③の問いについて周囲の生徒の意見を聞き、良いと思った意見に感想を書く。	
評価方法 単元テスト、成果物、演技等	ロイノノートの記述	ロイノノートの記述	ロイノノートの記述	記入する	ロイノノート・スケール
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	単元の途中	単元の途中	単元の途中		単元の途中

特別の教科 道徳 学習指導案

日 時 令和3年10月15日(金)

対 象 1年 2組 計 22名

授業者 教諭 石井 英友

場 所 5階 1年2組教室

1 単元名 「あふれる愛」

2 本時の目標 (ねらい)

- ・「生命」や「死」についての単元に触れ、自身の大切な生命について見つめ直す。

3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の説明を聞く。 ・「マザー・テレサの祈り」の動画を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まなビューア」内『中学道徳 あすを生きる①』で動画を再生する。 	
展開①	15	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の朗読を聞く。 ・「赤ん坊や生きているのに見捨てられた人々が路上に見捨てられている状況について」考えをまとめ、「ロイロノート・スクール」のふせんに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まなビューア」内『中学道徳 あすを生きる①』の朗読を再生する。 ・「ロイロノート・スクール」の提出箱を作成し、提出させる。 ・提出箱の意見を「比較」し、電子黒板で生徒に提示する。 	
展開②	10	<p style="text-align: center;">タキノミーより：「分析する」の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マザー・テレサは、どうしてこれほど真剣に老婆を助けたいと思うのだろう」という問いに対する考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」の提出箱を作成し、提出させる。 	
展開③	12	<p style="text-align: center;">タキノミーより：「評価する」の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班員に自身の意見を送る。 ・班員から送られてきた意見を読み、良いと思った意見を選択する。 ・良いと思った理由を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」の生徒間通信ができるようにする。 ・「ロイロノート・スクール」の提出箱を作成し、提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身がよいと思った意見を取り出し、その理由を記述することができる。 【思・判・表】
まとめ	8	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の感想を記入する。(ワークシート) ・本時の振り返り 		

4 タキノミーに対応した評価

- ・「マザー・テレサが真剣に老婆を助けたい気持ち」について、自分の気持ちをまとめることができる。(分析する)
- ・班員の意見の中から、良いと思った意見を選択することができる。(評価する)

デジタル・タキソノミー・テーブル (Digital Taxonomy Verbs × 道具・手立て × 観点別評価)

知識次元	認知過程次元 (学びの深さ)				
	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する
学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	①本文の明瞭を聞く				
学習目標	②「国立競技場のグラウンドに感動③「イングラントの監督から冬の芝を削る」の意図を説明し、自分の考えを述べ、自分の考えを他の人と共有する。また、自分の考えを他の人と共有する。				
学習者の動詞	聞く	記入する 共有する	記入する		
道具・手立 (ICT含む)	まなぶユーア	ロイノノート・スケール	ロイノノート・スケール		
学習目標	④「鈴木さんが、冬でも美しい緑色の芝を作りたかと思つたのはなぜ？」という問いに対する考えをまとめる。				
学習者の動詞			記入する		
道具・手立 (ICT含む)			ワークシート		
学習目標					
学習者の動詞					
道具・手立 (ICT含む)					⑤④の問いについて周囲の生徒の意見を聞き、良いと思つた意見をワークシートを書く。
学習目標					
学習者の動詞					記入する 共有する
道具・手立 (ICT含む)					ロイノノート・スケール

3観点

知識・技能

思考・判断・表現

学びに向かう力・人間性等

評価規準 単元を通して育むチカラ	「鈴木さんが、冬でも美しい緑色の芝を作りたかと思つたのはなぜ？」という問いに対する他の生徒の意見から良いと思うものを選別し、評価することができている。	「イングラントの監督から冬の芝について指摘されたときの鈴木さんの考えについて」想像し、自身の意見を記述することができている。	「理解や、それに伴う努力」をテーマにした単元の内容に触れ、人間や社会の在り方について考えることができている。
評価方法 単元テスト、成果物、演技等	ワークシートの記述	ワークシートの記述	ワークシートの記述・観察
評価の機会 単元の途中、最後、等評価のタイミング	単元の最後	単元の途中	単元の途中

特別の教科 道徳 学習指導案

日 時 令和3年12月20日(月)

対 象 1年2組 計22名

授業者 教諭 石井 英友

場 所 5階 1年2組教室

- 1 単元名 「緑のじゅうたん」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・「理想」や「努力」をテーマにした単元の内容に触れ、人間や社会の在り方について考える。
- 3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の説明を聞く。 ・新国立競技場の動画を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者の iPad から動画を再生する。 	
展開①	10	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の朗読を聞く。 ・「国立競技場のグラウンドに感動した鈴木さんが、就職して働き始めたとき、どんな気持ちでいた？」について考えをまとめ、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まなビューア」内『中学道徳 あすを生きる①』の朗読を再生する。 ・「ロイロノート・スクール」の提出箱を作成し、「自分の意見」を写真に撮影し、提出するよう指示する。 ・「無記名」にて提出箱の意見をモニターに写し、生徒に提示する。 	
展開②	10	タキソノミーより：「応用する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・「イングランドの監督から冬の芝について指摘されたとき、鈴木さんはどんなことを考えた？」という問いに対する考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」の提出箱を作成し、「自分の意見」を写真に撮影し、提出するよう指示する。 ・「無記名」にて提出箱の意見をモニターに写し、生徒に提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の考えについて想像し、自身の意見を記述することができる。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>
展開③	18	タキソノミーより：「評価する」の実践		
		<ul style="list-style-type: none"> ・「鈴木さんが、冬でも美しい緑色の芝を作りたいと思ったのはなぜ？」という問いに対する考えをまとめる。 ・問いについて周囲の生徒の意見を聞き、良いと思った意見とその理由をワークシートを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」の提出箱を作成し、「自分の意見」と「良いと思った生徒の意見とその理由」を写真に撮影し、提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問いに対する他の生徒の意見から良いと思うものを選択し、評価することができる。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>
まとめ	7	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の感想をワークシートに記入する。 ・本時の振り返り 		

4 タキソノミーに対応した評価

- ・「イングランドの監督から冬の芝について指摘されたときの鈴木さんの考えについて」想像し、自身の意見を記述することができる。(応用する)
- ・「鈴木さんが、冬でも美しい緑色の芝を作りたいと思ったのはなぜ？」という問いに対する他の生徒の意見から良いと思うものを選択し、評価することができる。(評価する)

以下3事例は、ICTの活用のみに視点を当て実践したもののため、タキソミーの作成は省略している。

社会科（公民的分野）学習指導案

日時 令和3年11月29日（月）5時間目・6時間目
 対象 杉並区立泉南中学校 3年B組 計38名
 墨田区立錦糸中学校 3年2組 計33名
 授業者 墨田区立錦糸中学校 主幹教諭 古賀 隆一郎
 場所 墨田区立錦糸中学校 デイバート会場 第2音楽室

- 単元名 「終章 私たちが未来の社会を築く」
- 本時の目標（ねらい）
 - ・ディベートを通して、SDGsを学び、論理的思考を養う。
 - ・両校の生徒の交流を通して、多面的・多角的な視点と表現力を身に付ける。
- 本日の展開（2時間・それぞれの学校の3教室をオンラインで繋いで実施。）

	分	学習内容 <small>以下、ICT活用のみに視点を当て実践した事例を掲載する。</small>	指導上の留意点	評価規準		
導入	10	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの中学校の自己紹介をする。 ・本日の授業の流れとディベートについての説明を聞く。 ・班内で役割分担をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」のカードを配信し、画面共有を行いながら説明する。 ・班のうち、1名は審査員とし、残りの班員がA：賛成派、B：反対派の2つに分かれるように指示する。 			
展開①	40	<p style="text-align: center;">テーマ「レジ袋を無料で戻すべきである。賛成か。反対か。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて、タブレット端末等で調査をせずに、自分自身で考える。（5分） ・グループごとに作戦会議をする。（35分） 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行う。 ・グループごとに、両校をオンラインでつなぎ、話をしながら、その場で役割分担をしながら、iPadで調査をするように指示をする。 ・それぞれの立場ごとに提出箱を作成し、共有することで、必要な情報のやりとりをするように伝える。 ・作成したカードは、提出箱に提出するように指示する。 ・時間内に収まれば発表者は何人でもよいことを伝える。 ・机間指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな根拠・証拠をもって、様々な立場から多面的・多角的に考察し、自分の意見を記述することができる。（ワークシートの記述） 		
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">A 賛成派</th> <th style="width: 33%;">B 反対派</th> <th style="width: 33%;">C 審査員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・iPadを使い、調査する。 ・「ロイロノート・スクール」で、根拠・証拠の提示の際の資料を作成する。 ・発表者を決定する。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・公正・公平な立場で審査できるように、iPadを使って判断材料の準備をする。 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			A 賛成派	B 反対派
A 賛成派	B 反対派	C 審査員				
<ul style="list-style-type: none"> ・iPadを使い、調査する。 ・「ロイロノート・スクール」で、根拠・証拠の提示の際の資料を作成する。 ・発表者を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公正・公平な立場で審査できるように、iPadを使って判断材料の準備をする。 					
展開②	40	<p style="text-align: center;">ディベートを通して、SDGsを学び、論理的思考を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛成派がスピーチをする。（5分） ・反対派が賛成派に質疑をする（3分） ・反対派がスピーチをする。（5分） ・反対派が賛成派に質疑をする。（3分） ・グループごとに作戦会議をする。（12分） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」で画面共有を行う。 ・メモをしながら、話を聞くように指示する。 ・それぞれの立場のスピーチを聞き、最終弁論の内容を相談するように伝える。 ・時間内に収まれば発表者は何人でもよいことを伝える。 ・多数決で多い方の勝利とする。 			
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">A 賛成派</th> <th style="width: 33%;">B 反対派</th> <th style="width: 33%;">C 審査員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・最終弁論に向けて。作戦会議をする。 ・最終弁論の発表者を決定する。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・賛成派、反対派それぞれの立場のスピーチを振り返り、これまでの根拠・証拠について、整理し、情報を共有する。 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			A 賛成派	B 反対派
A 賛成派	B 反対派	C 審査員				
<ul style="list-style-type: none"> ・最終弁論に向けて。作戦会議をする。 ・最終弁論の発表者を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・賛成派、反対派それぞれの立場のスピーチを振り返り、これまでの根拠・証拠について、整理し、情報を共有する。 					
まとめ	10	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」で、カードを配信し、提出箱に提出するように指示する。 			

- 評価
 - ・ディベートを通して、SDGsを学び、論理的思考を養うことができる。
 - ・両校の生徒の交流を通して、多面的・多角的な視点と表現力を身に付けることができる。

社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 令和 3 年 2 月 10 日（木） 5 時間目
 対 象 杉並区立泉南中学校 1 年 C 組 計 25 名
 墨田区立錦糸中学校 1 年 1 組 計 22 名
 授業者 墨田区立錦糸中学校 主幹教諭 古賀 隆一郎
 場 所 杉並区立泉南中学校 1 年 C 組 教室
 墨田区立錦糸中学校 第 2 音 楽 室

1 単元名 「6 オセアニア州」

2 本時の目標（ねらい）

- ・地球温暖化影響を解決するために、自分たちができることを提案する。
- ・杉並区、墨田区の取組の比較、ゲストティーチャーの話を通して、地球温暖化への理解を深める。

3 本日の展開

	分	学習内容	指導上の留意点	評価規準
導 入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの中学校の自己紹介をする。 ・ゲストティーチャー（在東京ツバル名誉総領事館）の紹介 ・本時の目標を確認する。 		
展 開 ①	20	<p style="text-align: center;">杉並区と墨田区の地球温暖化への取組を比較し、自分たちができることを提案する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化に対する杉並区、墨田区の取組を調査し、地球温暖化を解決するために自分たちができることを提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」を使ってまとめた、杉並区、墨田区の取組の調査を踏まえて、地球温暖化を解決するために、自分たちができることをグループごとに発表させる。 ・作成したスライドは「ロイロノート・スクール」で画面を共有させる。 ・発表を聞きながら、参考になる意見はメモを取るように指示する。 	
展 開 ②	20	<p style="text-align: center;">ツバルの現地の声を聞き、さらに深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティチャーの話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ツバルの現状を聞くなかで、SDGsのゴールを達成するための方策を考えさせる。 ・両校の発表の評価をしてもらうことで、さらに理解を深める。 	
ま と め	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート・スクール」で、カードを配信し、提出箱に提出するように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両校の発表、ゲストティーチャーの話を聞き、自分なりの意見をもつことができる。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>

4 評価

- ・地球温暖化を解決するために、自分たちができることを提案することができる。
- ・杉並区・墨田区の取組の比較、ゲストティーチャーの話を通して、地球温暖化への理解を深めることができる。

美術科学習指導案

日 時 令和4年2月10日(木)
 対 象 第1年2組 22名
 授業者 教諭 濱 夏子
 場 所 5階1年2組教室

- 1 単元名 「ウッドジュエリーデザインに挑戦。木工芸の世界へようこそ。」
- 2 本時の目標 (ねらい)
 - ・木工芸作品を使う目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから、分かりやすさ、美しさなどとの調和を考えてキャプションの構想を練る。

3 本日の展開

	分	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・キャプション制作に向けて、商品 POP の比較をする。 ・見やすいPOPについて考える。 ・キャプションの条件について、ワークシートを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予め板書に明示して、今日の手組がわかるようにしておく。 	
展開①	20	キャプションの構想を練る		
		<ul style="list-style-type: none"> ・作品についての情報をワークシートにまとめる。 ・作品のイメージを色や文字の形(フォント)で表す。 ・資料集の色の効果を参考にしながらイメージに合わせた色を選択する。 ・できた人から作品の写真撮影や、イラスト作成を行う。 ・作品イメージに合わせた使用写真や作品写真、またはイラストを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布して、作品POPを制作するときに必要な要点①タイトル②キャッチコピー③アピールポイント(50字程度)④写真またはイラスト⑤作品全体のイメージを色に置き換えるを確認し、制作に向けての下準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい内容について、分かりやすい美しさなどを考え、表現の構想を練る。 <p style="text-align: center;">【思・判・表】</p>
展開②	10	Keynote の操作方法を理解する		
		<ul style="list-style-type: none"> ・【Keynote】の基本的な操作を理解する。 ・ワークシートに基づいて、タイトル、キャッチコピー、アピールポイントをレイアウトする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が表現したい全体のイメージに合わせて色や形を工夫するよう指示する。 	
まとめ	15	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の手組を振り返る。 ・【ロイロノート・スクール】にワークシートを写真撮影し、キャプションをPDFにして、次回どのような形になるか画像を基にスケッチを加筆する。 ・次時の学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャプションをPDF化し、次にどうするかを書き込むなどして、【ロイロノート・スクール】に提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の順序を考えながら、見通しをもって表現する。 <p style="text-align: center;">【知・技】</p>

4 評価

- ・木工芸作品を使う目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから、分かりやすさ、美しさなどとの調和を考えてキャプションの構想を練ることができた。